14.5-364
1200600190995
4.5
364

シセP-16

哈爾濱商品陳列館
ハルビントツレフンバ

昭和五年哈爾濱商況

昭和六年四月
第一百五十七號

露光量違いの為重複撮影

露滿蒙通信刊行會規定

一、本會は歐露、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査通信するを目的とします

一、本會は左の刊行物を發行します

(イ)露亞時報—露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があります(月刊雜誌)

(ロ)パンフレット—同上記事を三〇頁乃至百頁に一纏めにしたる單行書であります(月二回)

(ハ)週報—週内哈爾濱地方に起りたる出來事を簡報し讀者の質問に供するのであります(週刊謄寫版)

一、本會は哈爾濱商品陳列館内に設けてあります

一、會員は一ヶ年拾貳圓の會費を前納しまして前記諸刊行物を受納するのであります

北滿洲哈爾濱道裡斜紋街商品陳列館内

露滿蒙通信刊行會

897339

哈爾濱商品陳列館

パンフレット第一五七號

昭和五年哈爾濱商況

哈爾濱を中心とする北滿の昭和五年は、前年の露支紛爭、銀安に引續く世界的不況の寒風に遺憾なく吹きまくられた。地方唯一の財源たる特產物の海外輸出不振、通貨たる哈大洋官吊の慘落、屢次に亘る東鐵の減産、露支商店の破產閉店相續き極度に經濟界を萎靡せしめ、徹頭徹尾不景氣のドン底に呻吟せる一ヶ年であつた。本篇は其概要で館員井上漸の筆になるもの、參考に資する次第である。

昭和六年四月十五日　　館長　川角忠雄

露光量違いの為重複撮影

露滿蒙通信刊行會規定

一、本會は歐亞、西比利亞及滿蒙の財政、經濟、金融その他一般事情を調査通信するを目的とします

一、本會は左の刊行物を發行します

(イ)露亞時報—露滿蒙地方の財政經濟その他一般事情の記事があります(月刊雜誌)

(ロ)パンフレット—同上記事を三〇頁乃至百頁に一纏めにしたる單行書であります(月二回

(ハ)週報—週内哈爾濱地方に起りたる出來事を簡潔し讀者の質問に供するのであります(週刊廣告版)

一、本會は哈爾濱商品陳列館内に設けてあります

一、會員は一ヶ年拾貳圓の會費を前納しまして前記露刊行物を受納するのであります

北滿洲哈爾濱道裡外數街商品陳列館内

露滿蒙通信刊行會

897339

哈爾濱商品陳列館

パンフレット第一五七號

昭和五年哈爾濱商況

哈爾濱を中心とする北滿の昭和五年は、前年の露支紛爭、銀安に引續く世界的不況の寒風に遺憾なく吹きまくられた。地方唯一の資源たる特產物の海外輸出不振、通貨たる哈大洋官帖の暴落、屢次に亘る東鐵の馘首、露支商店の破産閉店相繼き極度に經濟界を萎靡せしめ、徹頭徹尾不景氣のドン底に呻吟せる一ヶ年であつた。本篇は其概要で館員井上漸の筆になるもの、參考に資する次第である。

昭和六年四月十五日

館長　川角忠雄

昭和五年中哈爾濱商況

目次

第一章　昭和五年中北滿經濟概觀……一
附、同年北滿重要經濟日誌……六
第二章　昭和五年中の哈大洋騰落事情……一七
第三章　昭和五年東支鐵道運輸成績……二七
第四章　昭和五年中輸入界概況……三一
第五章　重要輸入商品市況……三九
一、綿　糸　布……三九
(イ)一　般　市　況……三九

(ロ)主要銘柄各月中の最高最低相場……四四
(ハ)綿糸布到着數量……四八
二、砂　糖……五九
(イ)一　般　商　況……五九
(ロ)各月現物相場及各月現物出來高……七一
三、青　果　類……七五
(イ)林　檎……七五
(ロ)密　柑……七九
第六章　昭和五年中北滿特產界概況……八三
第七章　昭和五年中重要特產物取引狀況……九一

一、豆　粕……九一
(イ)出來高及相場……九一
(ロ)一　般　商　況……九三
(ハ)東支鐵道沿線各地に於ける豆粕製造高……九六
二、豆　油……九七
(イ)出來高及相場……九八
(ロ)一　般　商　況……九九
三、大　豆……一〇〇
(イ)出來高及相場……一〇〇
(ロ)一　般　商　況……一〇二

(ハ)東支鐵道沿線に於ける各月末在荷量……一〇七
四、小　麥……一一一
……目　次　終……

昭和五年哈爾賓商況

第一章　昭和五年北滿經濟界概觀

附　同年北滿重要經濟日誌

北滿の經濟界としては昭和四年の上半期迄は不振不況とは云ひながらさほど深刻なものではなかつたが、同年下半期より現時の如き著しき不況を招來するに至つた。即ち昭和四年七月勃發した『東鐵道問題を中心とする露支紛爭事件』は同年北滿經濟界に不振を誘致せる直接近因にして、之に世界的銀安の大勢が加はりて同年下半期に於ける北滿經濟界の混亂を惹起するに至つたのである。

超えて昭和五年には一陽來復經濟界の回生を豫期せられたるも、世界的一般不況の風は益々北滿の曠野にも吹き荒むに至つた。

即ち銀塊相場暴落に伴なふ當地哈大洋及奥地官吊の慘落、北滿購買力の根源をなす特産物の海

外輸出不振は北支經濟界を極度に萎縮せしめ、東支鐵道を初めとし各商店の從業員餘剰沙汰、家屋家賃値下げ運動東支鐵道運賃値下げ要求、延いては露支商の破産說等々後述の如く憂慮なる經濟相が次ぎから次へと描き出され全年を通じて終始不安と不振を以つて越年した。

此不振の根本原因をなすものは前述の如く特産物輸出不振と銀塊安に伴なふ哈大洋及奥地官吊の暴落にあることは云ふ迄もなく、其結果奥地との取引關係を有する問屋筋(主として華商)に響き、輸出關係問屋の多くは前述の如く特産物値下りのため多大の打撃を受け倒産者をさへ出すに至り、又一方輸入關係の問屋に於ても亦奥地への賣掛金の回收困難又は回收不能に陷りたるもの多きため、茲に資金の運轉圓滑を欠ぐに至つた。加ふるに一方新規仕入れは銀行の貸出警戒、延掛買不能のため買控へるもの多く、金融益々逼迫して大頓挫を來たし、手も足も出ざる窮地に陷り僅かに手持ち品の投賣的處分によつて急場を切り拔けんとしたものか續出した。併し今回の商民の窮狀は局部的のものにあらざるため、手持ち品の處分も意の如くならず益々深みに追詰められ悲鳴を擧ぐるの外なきに至つた。

右の如く過去一ケ年の間に大小取りまぜ引切りなしに破産閉店の憂慮なる經濟相の發生を見るに至つたが、支那側の調査による昭和五年中の哈爾濱全市華商の倒産者は實に四百六十三店、其負債殘額六百八十万五千元の巨額に達して居る。其内支那商務會の規定せる營業等級七等以上所謂中流以上の店舗百七十戸、其負債殘額四百六十一万四千元内外を算し、小商店の倒産は二百九十三軒負債殘額二百二十万元の金額に及んで居る。即ち倒産者は大小合して一戸平均一萬四千五百元の負債殘額を背負つて居る勘定となるか、中流以上の負債殘額の一戸當り平均額は二万七千五百元となつて居る。次に所謂中流以上の月別倒産者及其負債殘額(負債殘額不明のものは含まず)を示せば左の如くなつて居る。

	倒産戸數	負債殘額
一月	一三	四六〇、九〇〇元
二月	一四	三二〇、〇〇〇
三月	二四	七一六、〇〇〇
四月	一三	五〇、〇〇〇
五月	九	二一八、九〇〇

六月	三一	七四六、四〇〇
七月	八	一二九、四〇〇
八月	七	一四八、九〇〇
九月	一四	三四三、〇〇〇
十月	一四	四三五、三五〇
十一月	一〇	三五三、〇〇〇
十二月	一三	二四二、二〇〇
計	一七〇	四、六一四、〇五〇

次に右の倒産者を業種別に見ると次の通りになつて居る。

金銀店	二	曹達店	一	木廠	八
米店	二	錢業	一六	雜貨	一三
當舗(質店)	二	綢緞舗	七	五金	三
釀酒	三	磁鐵舗	一	香店	一
				皮莊	六
				硝子工場	一
				柳條舗(柳行李店)	一
				衣莊	一
				油房	一
				染房	一
				其他	七六
				合計	一七〇戸

鐘表舗	一	客棧	三	糧業	七
煙草	二	書局	一	種稻業	一
鞋店	三	麵莊	四	醬園	一
轉運業	一				

右に就て見るも輸入品の取引を主として居る雜貨商筋及哈大洋慘落の影響を最も深刻に受げた

る錢舗並に特產商等か比較的多く倒れて居ることか判然する。

又一面輸入外商筋(日華商以外のもの)も亦北滿農村疲弊、華商窮迫の際とて賣掛代金の回收極めて惡しく、殊に年末の如きは賣掛金額の一割だも回收し得ざるものすら出現するに至つた。

今參考のため北滿經濟界に影響を與へたる年中の主なる事項を日誌体に略述すれば左の如し。

一　月

四　日　松北鏞收容所の露人監禁者の一齊釋放により當地露人相手雜貨商は俄かに色めき活況を呈せり

二十日　哈爾濱海關稅務司の名を以つて『豆油及大豆粕の國境輸出に際しては一月二十日より輸出附加稅徵收を免かる又大豆油に對する輸出稅ピクル當り〇、三兩を〇、二兩に低落する』旨發表さる。

二十一日　閉鎖中の蘇聯邦通商代表部石油工業シンヂケート、極東林業トラスト再開。

二十二日　支那海關は二月一日以降海關兩を廢して金建に變更する旨發表し一海關兩の換算率を左の如く決定した。

二月一日以降　一、二〇三七五圓

三月十六日後　一、四〇四三七五圓

二十三日　サウエート總領事メリニコフ着任

二十五日　閉鎖中の烏鐵商業代辦所再開。

二十七日　閉鎖中のダリバンク開店。

二　月

一　日　露支紛爭解決後最初のモスコー行き列車出發。

全露林業トラスト、極東國營炭坑トラスト、國營保險出張所蘇聯邦貿易シンヂカート何れも再開せり。

五　日　東支鐵道當局の發表に據れば一月の前半十五日間の貨物輸送は前年に比し著しく減少し、昨年の三十一萬屯に比し二十万屯に過ぎなかつた。

八　日　東支鐵道當局の發表に據れば一九二八年十月一日より一九二九年九月三十日に至

る滿一ヶ年間の商品輸送高は五百五十七萬七千七百九十七屯

十　日　在哈爾濱サウエート總領事館にて昨夏支那官憲に逮捕せられたる三十六名のサウエート共産黨員は本國に歸還せり。

二十二日　英米獨露の一流輸入業者代表者は水道街ヂャーデン、マヂソン商會に集會し、『華商中、露支紛爭事件前に注文せる商品にて今日に至るも尙引取らざる商店に對しては今後絶對に新規注文を受けつけざる』旨決議せり。

二十六日　露支紛爭事件中監禁せられたる東支鐵道從業員に對する監禁五ヶ月の給料支拂開始せられたるも、市況は月中豫期せられたる活況を見ず。

三　月

一　日　閉鎖中の蘇聯邦商船隊再開。

四　日　北滿特産界の雄シベリヤ商會閉鎖され斯界に非常なるショックを與ふ。

二十五日　松花江の氷上通行禁止さる。

豫て新築中の華商新百貨店阜合昶華々しく開業す。

二十八日　輸出禁止中の食糧雜穀は本日附を以つて吉林當局の名によつて寛城子經由のものに限り解禁の旨發表さる。

四　月

二　日　哈大洋五十五圓丁度の新安値を現出。

同　南部線臥虎城待避驛附近にて二十二名の馬賊出現列車襲撃さる。

十三日　松花江河開き航行開始さる。

十七日　本日の東支鐵道管理局會議にて蘇聯邦商業代表の申告によつて同鐵道は本年度中に蘇聯邦より褐炭十四万二千屯を購入することに決定した。

二十五日　支那側電信官吏は露支紛爭中回收せる東支鐵道電信局及各驛の電信室を東支側に讓渡せり。

三十日　莫德惠氏を主席全權とする支那側代表員及東支鐵道代表員一行モスコーへ向け出發。

五　月

一　日　メーデー當日日本總領事館は鮮人學生團に襲撃され鮮人三十余名支那警察に拘引さる。

東支鐵道管理局總務課の統計によれば五月一日現在同鐵道の全從業員は二万二千八百七十六人にして、其内譯はサウヱート國民一万一千零二人、支那國民一萬一千八百七十四人である。

十五日　東支鐵道夏期運輪時間本日より實施。

同　東支鐵道工場は臨時日雇職工及事務員露人五十人、支那人百五十人を解雇した。

二十日　永らく支那工業狀態視察中の獨逸工業特派員八名來哈。

二十七日　久しく問題となつて居た北滿雜穀の輸出禁止令本日解除せらる。

二十九日　哈爾濱大洋は世界的銀安の影響を受け本日遂に四十九圓二十錢に狂落市場混亂す

六　月

一　日　東支鐵道當局は一九二九年の同鐵道收入支出を左の如く發表した。

收　入　六七、六三五、五〇四留

支　出　五一、四六六、四八八

利　益　一六、一六九、〇一六

四　日　哈大洋四十一圓八十錢の安値に下落し市況更に沈鬱となる。

八　日　東支鐵道管理局經濟調査局は昨年中の輸出入屯數を左の如く發表した。

輸出屯數　二、七八六、七三三屯

内　譯

浦鹽向け　八一五、六四九

大連向け　一、九七一、〇八四

輸入屯數　五一二、〇八九

内　譯

浦鹽より　四五、七〇一

大連其他南方より　四六六、三八八

九　日　通貨哈大洋の下落は深刻に反映し、ベンジンの如きは本月一日にて一鑵方三元の

騰貴を見た。

二十三日　東支鐵道理事會は札來諸爾炭坑の復活を決議した。

七　月

一　日　哈爾賓稅務署は本日より藥種類の課稅を施行。

十一　日　昨年七月以來實施されて居た問題の對露穀物輸出禁止は本日附特別區行政長官の布告で解禁せられた

十八日　東支鐵道の機械工場は本日より八月一日迄勞働者休暇と工場建物修理のため閉鎖さる

東北航務局は松花江最初の鋼鐵製汽船を進水した。

二十五日　支那側一流百貨店大同商店閉鎖。

二十九日　特別區行政長官は本日『商業取引のみならず家賃も哈大洋にするべき』旨の布告を發せり。

八　月

一　日　奉天當局は哈爾賓市自治會の改革に關する指令を發した。

傳家甸の商務總會は一切の支那側商店に對して南京政府商工部よりの命に基き、外國商品購入は銀洋建によるべき旨通達した。

十　日　暴落を續けた哈大洋相場は安値なからも四十四、五圓を保合ひ市況も多少落付きを見せた。

二十五日　日本內地の粕高にて急に活氣づき本日一日にて粕六万枚の取引を見た。

九　月

三　日　東支鐵道理事會は**モスコー**及奉天に支社を開設することに決定した。

十二日　滿洲里驛の**ダリバンク**兩替所は支那官憲により閉鎖さる。

十六日　安東海關三分の一減稅本日より徹廢、即日施行さる。

二十一日　戰亂其他の理由で兩三年來中止されて居た甘珠爾廟市本日より開催、海拉爾より多數商人參加す。

二十六日　**ロンドン**相場の下落にて當地大豆相場も慘落、一布度一元三十一仙の安値現出。

十　月

十六日　東省特別區敎育廳長は當地各學校長に『學生は總て支那國產の生地によりて制服を誂らゆべし、是れに違背したるものは罰則を課す』旨通達した。

二十四日　沿海州石炭五十貨車當地蘇聯邦通商代表部宛て到着した。

二十五日　當地の蘇聯邦通商代表部は當地在庫中の販賣し得べき商品の展示所を開設した。

三十日　官商廣信公司の銀買出動にて哈大洋急騰、本日遂に四十八圓台に昇騰市場を混亂せしめたが、翌三十一日買出動微弱となり稍沈靜した。

三十一日　行政長官は公署令を以つて穀物、木材檢査稅、小貨物に對する稅及食料品稅を廢し、統一したる穀物稅法を發布した。

十一月

一日　哈爾濱市內の空家は五百軒に及び家主悲鳴を擧ぐ。東支鐵道油房業代表は東支管理局長ルーヅイーを訪問し其不況を說明し、四十三工場は操業を短縮するか或は作業中止の已むなき狀態を述べ、一般的の運賃値下を請願した。

三日　蘇聯邦の國家的政策の現はれとして最近其國產たる各種織物、マツチ、煙草、石炭石油等を驚異的安値にてダンピングを開始し、各關係業者は夫々異常なる注意を拂ひ出した。

四日　過般來財政難を唱へられて居た東支鐵道は、來年度豫算査究會議で本年度末迄は鐵道運轉に必要なる支出及業務上已むを得ざる經費の外は一切支出を見合すことを申合はせた。

五日　最近當地に進出せる蘇聯邦エクスポート、フレーブ國營穀物輸出機關當業者は當地支那實業界の有力者を今夕招待して披露宴を張る。

東支鐵道は當地方支那銀行に對し大洋三百万圓借入方を交渉し本日調印された。年利八分。

十三日　蘇聯邦工業公債は北滿在住露人からも募集されることになり、東支鐵道從業員からは八ヶ月間に二百万金留を募集する豫定である。

十四日　濱口首相遭難の入電あり哈大洋四十七圓台に昇騰。

二十三日　東支鐵道理事會新理事バンドウラ氏着任。
二十四日　珍らしくゴストルグか豆油を沿海州向け輸出す。
二十六日　駿豆地方震災の報ありて哈大洋急騰したるも、局部的なること判明して市場直ちに沈靜に歸す。
二十八日　當地日本商工會議所、露支商店主は夫々東支鐵道當局に向つて鐵道運賃引下げの建言をした。

十二月

一　日　松花江荷馬車渡江開始。
六　日　哈爾濱支那側銀行總會は大洋票市價維持のため銀行券發行高を減ずることを決議した。
十　日　東支鐵道は馬車輸送に對抗するため本日より特定運賃を實施す。
二十日　本日より三月間商品陳列館に於て恒例の即賣會開催さる。
二十二日　明年より東支鐵道從業員にして月俸四百五十金留以上を受くる高級社員の給料は

一割減額されることに決定した。
二十三日　英國經濟委員會代表者マルコム氏一行北滿經濟視察のため來哈
二十八日　露支交渉のため半ヶ年余モスコーに滯在したる東支鐵道理事長莫德惠氏歸哈す。

第二章　昭和五年中の哈大洋騰落事情

哈大洋票は大正八年九月中國交通兩銀行哈爾濱支店により初めて發行され、北滿のみに限り通用する一種不可思議なる兌換紙幣であつて、右發行當初の發行準備としては發行高の七割まで、現大洋又は銀塊を保有して居た模樣であるが、爾後發行準備は漸次薄弱となり、現在では現銀の準備は殆どなく、不動産及手持特産物(主に大豆)が兌券對象物となり、大豆即ち哈大洋なりとまで稱せらゝるに至つた。

哈大洋票は始め當初に於ては兌換券としての性能を示し居たりしも、前述の如く發行準備薄となりし結果、商民は該票を兌換券として信用せざる傾向を有するに至りしを以つて、中國交通兩銀行は大正九年三月に大洋票は大洋銀に對する兌換券なる旨を公告したるも何等の効果なく、嗣

で同年十一月東三省官銀號が設立され、同時に哈大洋發行權を附與さるゝに及び一層該券の信用を失墜するに至つた。更に後日廣信公司、邊業銀行にも哈大洋發行權が與へられたるため、商民の該券に對する信用は稀薄となるに至つた。

今大正九年以降の哈大洋相場を示せば左の如し。（哈大洋一〇〇元に對する金圓各年平均相場）

大正九年	一五五圓四八
同　十年	一〇七、六六
同　十一年	一一〇、一九
同　十二年	一〇六、二一
同　十三年	一一七、〇八
同　十四年	一二一、一六
同　十五年	九四、三一
昭和二年	七七、四八
同　三年	七三、三八

同　四年	六五、一七
同　五年	四七、五一

飜つて昭和五年の哈大洋騰落の跡を見るに昭和四年中に於て

一、南方支那の擾亂

一、日本の金解禁氣構へ

一、東支鐵道問題を中心とする露支紛爭事件

等、銀塊相場以外の特殊刺戟材料が輻輳したるに反して、昭和五年の騰落は概して平凡と云はざるを得ない。即ち五十五圓七十五錢にて越年したる昭和四年の跡を受けて四十四圓五十錢にて昭和五年の幕を閉ぢ、其間約二割餘の下落を見、嘗て未見ざる新安値を現出したるも、大勢は銀塊相場に追隨したるものにて、度々官憲の手にて行はれた人爲的の吊り上げ策も太した効果なく大體に於て下落一方を辿つた。

今昭和五年中哈大洋各月の對金圓相場の最高最低及其騰落事情を示せば左の如し。

	最高	最低	概要
一月　上旬	五六、五五	五三、六〇	露支問題の急轉直下的好轉、北滿時局の安定に伴なつ

中旬　五七、四〇　五五、三〇　て昭和四年の末以來哈大洋相場徐々に好轉し、年初めの
下旬　五六、六〇　五五、三五　初立會には五十六圓五、六十錢處の氣勢を揚げんとした折りも折り、依然市場は世界的銀安の一大衝動（佛領印度支那の銀建廢止による銀の世界的洪水）の渦中に引込まれて、四日急角度に傾斜し初めて忽ち五十四圓台に落ち、闘で暴落乆慘落混亂の市場を描き、六日には早くも五十三圓台と云ふ安値に落ちた。然るに八九日以後、支那の金建本位採用說、米國の銀生產制限說など流布せられ、市場には頗る銳敏に響き一時素晴らしい反發振りを示したが世界的銀安の大勢に抗し得ず、ずり安を示しつゝ五十五圓七十五錢にて越月した

二月　上旬　五六、五〇　五四、八〇　世界的銀安の大勢に引づられながらも現物拂底の聲
中旬　五七、一〇　五六、二〇　に脅かされて可成りの底强さを持續し、下旬開業準備

下旬　六三、〇〇　五六、四五　中の**ダリバンク**が哈大洋現物買占めに出たゝめ銀安の大勢に反抗して意外な强氣を示し、二十八日六十三圓と云ふ高値を見せ結局六十圓丁度にて越月した。

三月　上旬　六三、二五　五七、一〇　前月に引き續き世界的銀安を他處に見て哈大洋のみ獨
中旬　六二、六〇　五六、五〇　り强氣をつゞけ、十日六十三圓二十五錢と云ふ本年最
下旬　五八、五〇　五六、二五　高の高値を出した。其後哈大洋增發說傳はりて弱含みとなり結局五十六圓五十錢にて越月した。

四月　上旬　五七、五五　五五、〇〇　前月中旬以來南方銀に追隨して弱氣一途を辿り頗る平
中旬　五七、三〇　五六、四〇　凡。
下旬　五六、八〇　五六、三五

五月　上旬　五七、四五　五六、三〇　前月平凡なる步調を辿つて居た哈大洋は今月に入るも
中旬　五五、六五　五四、九〇　依然特別な刺戟材料なく上半ケ月は頗る平穩に推移した。併し月半ばに至るや端午の決濟期近づくと共に、
下旬　五五、六五　四八、八〇

外國貿易資金の必要から金に乘り換へる向き增加し、その中にはスペキユレーターの活躍さへも加はり益々銀安の地方的材料を提供し、加ふるに南支の戰機が次第に熟し來る等の事情が影響して十五日五十六圓台割れ二十四日には五十五圓を割り、二十六日に至り五十二圓三十錢への崩落を見せ、二十七日更に五十二圓台を割り、二十九日に至るや大連銀市の豫期以上の大崩落に追隨して逆落しの大轉落五十圓台割れを現出した矢繼早やに飛來する大連銀崩落の入電を受けてツルベ落しに崩落し二日四十八圓台をも割り、四日四十一圓八十錢と云ふ新安値を現出する迄に至たかロンドン銀塊市場强調の影響を受けて續いて上押し、九日四十九圓丁度に暴騰した。其後十二日の四十九圓三十錢を天

六月　上旬　五〇、六〇　四一、八〇
　　中旬　四九、三〇　四二、二〇
　　下旬　四六、二〇　四〇、四〇

井として又もや急テンポの落調に入り、四十七圓台から四十六圓台更に四十六圓台も割り、嗣で約一週間は大体に於て小固く保合つたが、二十二日に入るとまた〳〵急激なる落調に轉じ同日四十一圓二十錢と云ふ大慘落を現出し、翌日更に四十四錢の新安値現出となつた。其後稍や上向き二十七日迄四十二圓台の小康狀態を持續し、尙ロンドン銀塊高に追隨して三十日四十六圓二十錢の高値を呼んだが、爾後南方銀に追隨しつゝ結局四十四圓八十錢にて越月した。

○月初め四十四圓台の保合狀態を續けて居たか。六日より弱氣含みとなり、四十三圓台を中心として一騰一落の歩みを週期的に往復し、二十三日迄相場は頗る平調であつた。二一四日に至るや四十四圓台に昇騰して稍

七月　上旬　四四、六〇　四二、二〇
　　中旬　四三、九〇　四二、九〇
　　下旬　四五、三五　四三、四〇

八月　上旬　四四、六〇　四四、〇五
中旬　四六、七五　四四、二五
下旬　四六、七五　四四、九五

強調を見せ、翌二十五日に至り更に急騰を告げ高値四十五圓三十五錢を現出するに至つた。其最大の原因については過日朝鮮九州、中國一帶を襲つた大暴風の損害が過大に宣傳せられたゝめであると見る向きさへあつたが、此强氣も束の間で二十八日には已に弱氣に入り直ちに四十五圓台を割り結局四十四圓四十錢にて越月した。

先月末以來四十四圓台を小固く保合を持續して上旬を終つたが、中旬に入るや南方銀高に刺戟されて强調振りを見せたが十六日張學良死亡説傳はり幾分弱含みとなり忽ちの間に四十六圓台から四十四圓台まで下落、猶不安より來たる動搖は止まない狀態であつたが、該説も虛報なること判明するや十八日十九日と次第に落

九月　上旬　四五、九二五　四四、三五
中旬　四六、〇五　四四、五五
下旬　四五、四〇　四三、七五

付きを取戻した。爾後南方銀に追隨してボツ〳〵下り、阪となり遂に四十六圓台を割り、月末迄約十日間順調なる歩調にて四十五圓台を一上一下しつゝ結局四十五圓九十錢にて越月した。

弱調ながらも尙四十五圓台を維持しつゝ月初約一週間を大体に於て保合つたが、六日奉天軍の關内出兵説が手傳ひ四十五圓〇五錢の安値を現出し、七日南方向爲替の逆調により更に一段と弱調を呈し、八日四十四圓三十五錢の安値を現出した、十八日奉天の出兵説再び傳はりて一落益々崩れんとした折、大連銀市反潑の入電と支那大手筋の實需買物出現によりて辛ふじて頽勢を支へ止め却つて强氣に轉じたが、其の後南方銀市に追隨して漸次低落、月末三十日に至り更に急角度に悪

十月　上旬　四五、一五　四三、七五
中旬　四五、一七五　四五、七五
下旬　四八、〇〇　四四、五七五

化し忽ち四十四圓台を割つて越月した。月初以來太した刺戟材料も見當らなかつたが南方銀市に反抗して徐ろながらも好轉の傾向に入り、下旬初め迄小固く保合を續けた。月末近くになり廣信公司の銀買で漸騰歩調の一途を辿り二十九日珍らしくも一旦四十七圓台に上り、翌三十日に至つては更に一段と其歩調を強め、遂に前場に於て高値四十八圓を現出し文字通り恐怖相場を以つて市場を混亂せしめたが、三十一日には買出動も微弱となり結局四十七圓十錢にて越月した。

十一月　上旬　四七、二〇　四六、七五
中旬　四七、四〇　四六、五〇
下旬　四七、三〇　四六、七五

前月末官商筋の買出動によつて珍らしくも四十八圓迄昇騰し越月した哈大洋は、十四日濱口首相の遭難、二十六日駿豆地方震災等の一時的刺戟材料ありたるも大

十二月　上旬　四六、九〇　四三、九五
中旬　四五、六〇　四三、五七五
下旬　四四、六五　四三、九七五

体に於ては太した變證もなく無風帶裡にあつた。十六日前後世界的銀安に反抗して一時强氣配を現出したるも、概して銀塊相場弱氣の大勢には抗し得ず漸落し四十四圓台割れを演じ、其後稍戻して結局四十四圓五拾錢にて昭和五年の幕を閉ぢた。

第三章　昭和五年東支鐵道運輸成績

北滿經濟界のバロメーターとして各方面から注目せらるゝ東支鐵道の運輸成績を見るに、一九二九年（昭和四年）は露支事件が勃發せるにも拘はらず東支の輸送成績は必ずしも惡い方ではなかつた。現に一九二八年（昭和三年）の六百五十八萬五千キロ屯に對して、六百十九万八千屯を示して却つて十一万三千屯の增加を示した。然るに年末に至つて露支事件の影響は甚だ微力ながら特産市場以外の北滿經濟界にも影響を與ふるに至つた。殊に東部線と西部線の兩端はその影響するところ甚だ深刻であつた。

此露支事件も昭和五年の一月に無事解決を見るに至つて、北滿市場はほつと一息つく間もなく世界不況の風は北滿にも襲來して來た。最初の間こそは甚だ微溫的であつたが、時日を經るに從つて漸次深刻となり、特産市場は勿論輸入市場も大打撃を蒙つて來た。最後には總てを擧げて行き詰りの狀態に沈淪するに至つたのである。其結果は東支鐵道の運賃收入は激減した。試みに最近三ヶ年間に於ける貨車輸送數量(軍需品及社用品を除く)を對比すれば左の如くなつて居る。

昭和三年	五、四三〇、〇〇〇キロ屯
同　四年	五、五九六、〇〇〇
同　五年	四、一六〇、〇〇〇

尙昨年度に於て特記すべきことは、軍需品の輸送が前年度に比して激減せることであつて、昭和四年度は露支事件のため支那軍隊の東部線及西部線方面への出動に伴なひ十三萬九千屯の輸送を見たが、昭和五年は事件の解決と共に約半減し六萬七千屯を算するに過ぎなかつた。

東南行比較

昭和四年は東支烏鐵の連絡杜絶により常態を逸して南行輸送の激增を見たが、昭和五年東支烏

鐵の連絡開始と共に直ちに常態に復した、即ち兩年度の東行南行及地方向の輸出數量を見るに

	昭和四年	昭和五年
南　行	二、三九一、〇〇〇キロ屯	九九三、〇〇〇キロ屯
東　行	八二七、〇〇〇	一、三四二、〇〇〇
地　行	二、三七八、〇〇〇	一、八二五、〇〇〇

南行は昭和四年に於て例の露支事件のため殆ど獨占的地位を占めて二百三十九萬一千屯の輸送を見たが、昭和五年には其半數にも達せず、僅に九十九万三千屯を占むるに過ぎなかつた。之に反して東行は前年度の八十二万七十屯に對して昭和五年は百三十四万二千屯に達し、約二倍の激增を示して居るか、之を前々年度(昭和三年)の百五十一万二千屯に對比する時は尙約三十万屯の激減である。次に地方的輸送にあつては昭和四年の二百三十七萬八千屯に對して百八十二万五千屯を輸送して五十五万三千屯の減少を示して居る。

試みに昭和三年以降昭和五年に至る最近三ヶ年間に於ける輸出貨物の輸送數量(東南兩行貨物)及地方輸送(沿線各驛間)の數量を示せば

輸出（東南兩行）

昭和三年	三、一六六、〇〇〇キロ屯	二、二六四、〇〇〇キロ屯	各驛間
同　四年	三、二一八、〇〇〇	二、三七八、〇〇〇	
同　五年	二、三三五、〇〇〇	一、八二五、〇〇〇	

右の内東南行輸送貨物につき百分の比率を見るに左の如くなつて居る。

	東　行	南　行
昭和三年	四七、七	五二、三
同　四年	二五、七	七四、三
同　五年	五七、五	四二、五

貨物種類別輸送屯數

昭和五年に於ける東支輸送貨物は例によつて農作物及其加工品たる豆粕、豆油等斷然優位を占め其他の貨物に至つては其半數に過ぎない狀態にある。即ち

	農產物及其加工品	其他の貨物
昭和三年	三、五九一、〇〇〇キロ屯	一、八三九、〇〇〇キロ屯
同　四年	三、六九八、〇〇〇	一、八五八、〇〇〇
同　五年	二、七五八、〇〇〇	一、四〇二、〇〇〇

上表に就ても明らかなる如く昭和五年東支鐵道輸送貨物は其大宗たる特產物を初め、其他の貨物も局所數年間に比して非常なる減退を示したのであつた。即ち昭和五年は前年度に比して穀物約九十四万屯、其他の貨物に於て四十五萬六千屯の激減を示したのであつた。而して其減少の主因が世界的の不況から招來して來たことは云ふ迄もないが、昨年度は尙上半期に於て一進一退歐洲市場へ輸出を續けた大豆も下半期に至るや月を逐ふて漸次減退するに至り、新物出廻期に入つて歐洲輸出は愈々不況に陷り、之につれて一般貨物も減少し、殊に輸入貨物は大洋暴落に基く奥地の購買力減退に基いて取引閑散、稀有の衰退を呈するに至つたのである。

第四章　昭和五年中輸入界概況

一　月

露支時局の好轉赤系露人の東支鐵道復職等の好材料續出、露人を華客とするキタイスカヤ街に

於いては昨年末より生氣漲り何となく明るさを感じ得るに至つたが、モスコー正式會議開催の機運未だ醸成されず、豫期せる程好況を見るに至らなかつた。

一方昭和四年七月以來常に不況を唱つて居た華商筋も、舊暦年關切迫につれ、相當の倒産者を豫想されて居たが、三流商店筋に多少の閉店者を出したるのみにて無事年關を切り拔けた、露支時局突發以來今日迄に華商輸入商の受けた打撃を見るに

一、最近數年間の好調に乘じ資金を店舗建築及擴張等に流用固定せしめたこと

一、奥地購買力の減退によつて過剩のストックを生じたこと

一、賣懸代金回收が困難となつたこと

一、商品の値下りによる損失

等が主なるものである。

二　月

月初め恰も支那の舊正月に際會せる爲め恒例に依り支那側の會社、銀行は勿論一般商店筋に至るまで五日間一齊に休業し、其後元宵節(十二、十三、十四日)迄は其間業務を執るものあるも、は

んの申譯的で午前中は開店し午後は休業すると云ふ狀態で、支那人相手の一般輸出入業者も手が出せず、下旬に至るも特産界輸出不振による奥地購買力減少に禍されて、支那側相手の輸入は火の消へた樣に閑散を極めた。

三　月

埠頭區及傳家甸の一流雜貨店は何つれも春夏物の仕入れに沒頭し、殊に松花江の舟行期を直前にひかえ、一時に殺到する貨物輸送準備に各運輸業者は大童の体であつたが、航行開始と共に三姓、富錦、佳木斯方面に向つて貨物が可成り流出すべく特に綿糸布砂糖金物麻袋の關係業者は相當の仕入れをした模樣である。

四　月

本月に入り市内各卸商筋は春、夏物仕入れも大體に於て一巡し、中旬の松花江川開きを控へ手ぐすね引いて期待して居る狀況であつた。

小賣商店筋は一年中の書入れ時であるロシア側のパスハ(復活祭)及五月匆々の支那側極樂寺大祭(釋迦降誕祭)を控へ、何れも四月初旬より賣出しを開始し、引續く不況挽回に努力して居たが

大洋安一般不景氣とにたゝられて差し當りの必需品以外の買ひ思はしからず、問屋筋に於ては川閉き後も特産界の不振大洋安等に奥地人氣引立たず、何れも期待外れで茫然たる有樣であつた

五　月

當地購買力の原動力たる特産界の不振及哈大洋安黑龍江官帖暴落は、いやが上にも輸入界を沈衰せしめ、河開後の奥地筋取引も未だ取引らしい取引を見なかつた。加ふるに支那側問屋筋に於ては端午の節句を直前にして、益々金融逼迫し大物は勿論小物の諸雜貨店でさへ買付けは勿論差控へ、代金回收のみに沒頭し商況は頗る閑散なる狀態にあつた。

六　月

世界的一般の不況に加ふるに今次哈大洋の慘落（當月中最安値哈大洋一〇〇元に對し邦貨金四十圓四十錢）の爲め、當地哈爾濱の輸入界は日露支商何れも可成りの打擊を受けたが、殊に支那側輸入商筋に於ては之れが痛手に倒產に瀕するもの續出、一流商店筋も此の難局打開策に吸々たる有樣であつた。

之れがため支那輸入商は此れ以上從來のまゝ外商との取引を繼續することは不可能であるとな

し、當地輸入商中心機關たる支那雜貨公會に於ても先物契約破棄の決議をなし、尙同會加盟の各個人商店の署名を以つて其の買約ある日本商及其他外商に向つて

雜關切拔けの必要上、先物契約履行は到底至難にて、若し信用をたてに契約履行を迫らるれば同業者中破產者を出すに至るべく、延いては一般經濟界に及ぼす影響も甚大なる故事情御諒察の上貴店との先物契約は遠近に係はらず取消してもらいたい云々

との通告を發して來た。これは當地初まつて以來の重大な商業取引上の出來事であつた。

七　月

世界的銀安と當地特産界不況の影響を受けて、慘落に次ぐ慘落を以つてし、危ふく四十圓台割れを演ぜんとした哈大洋未曾有の暴落によつて、北滿市場は一時全く混亂狀態に陷り輸入貨物は殆んど杜絕同樣の憂目を見た。其結果として支那側一流百貨店大同商店が廿五日閉店する等全く沈衰の極にあつたが、月末に近つき哈大洋相場が四十三、四圓台を以つて漸く安定したして以來ホツポツ綿糸布—砂糖を初め其他の雜貨類も多少荷動きを見るに至り、市場の前途に一縷の光明を見出し、商況は幾分落付きを見せたかの觀があつた。

八　月

久し振りの哈大洋强調と、九月十六日より實施される安東稅關三分ノ一減稅撤廢に基く關稅高にて、一部にては綿糸布を始め可成りの見越輸入が行はれたる模樣なるも、久しきに亘る不況不振は急速に回復し得べくもあらず、哈爾濱銀座の稱あるキカイスカヤ街に家賃爭議が起るなど依然沈鬱なる商況を持續した。

九　月

冬物仕入れ時期も既に終り、露支各商店とも盛んに購買心を煽りたてゝ居るが、思はしき賣行きを見ず、依然として仕入れの手控へ、持ち越しストツクの整理等の消極的商法で終始した。露人商店筋については未だ倒產破產等の不祥事を耳にしないが、一年中の三大決濟期の一たる仲秋節を直前にして、華商筋殊に傳家甸にある華商の營業狀態に關しては種々なる風說が傳はり、對華商の取引を極度に不安ならしめた。

十　月

モスコーにて開催中の露支交涉が遲々として進捗せず、寧ろ停頓の觀ありとの報道が傳はるや

東支鐵道從業員は昭和四年の露支紛爭當時になめたる苦き經驗を想起したるものゝ如く、其の購買力は更に著るしく低下を見るに至つた。從つて東支鐵道從業員を重要顧客とするキタイスカヤ街の露商筋にては、更衣季節に際して必須の日用品の安物が出るのみで、一般の賣り上げは目に見へて減少した。

又一方仲秋節期明けに多大の期待をもたれて居た華商雜貨商筋の荷動きは依然として遲滯を續け、大口ものは勿論小口加工品類も例年より切り詰めた取引か行はれたのみであつた。これが原因と見るべきものは奥地よりの商人は相當出廻りたるも、田舍方面の顧客間の金融圓滑ならず、從つて購買力の復活を見ない爲め、商談成立する程の人氣が構成されず、仲秋節直後は相當の荷動きを見るべき筈であつたが、奥地金融經濟に最も重要なる關係をもつ特產物の出廻りが、今年は遲れ勝ちの上に相場は下向きに弱氣を續づけ、居るため、聊か出鼻をくぢかれた觀があつた。勢ひ人氣の沈滯を來たし各問屋筋はストツクの減少に努め乍らも掛賣りは出來る丈け避けると云ふ現象を呈した。

十一　月

世界的不況と今夏來引き續いての銀安の影響を受けて綿糸布、砂糖を初めとし、其他各種雜貨の輸入貨物の動きは恰も不振のドン底に陥り、各輸入團体の東支鐵道當局への運賃値下げ要求、市當局の發令せるダンピング取締りのための大安賣り禁止及華商筋の破產說等次から次へと憂鬱なる經濟相が表はれて來た。

併し此の間に於て一抹の清涼劑か蘇聯邦當局によつて當市場に投ぜられた。それは蘇聯邦の國家的政策の現はれとして、其の國產たる各種織物、マッチ、煙草、石炭、石油等を驚異的安値にてダンピング開始せることにて、之れに對して各關係業者は夫々異常なる注意を拂ふに至つた。

十　二　月

輸入新關稅實施期を前にして多少見込輸入あるものと豫期されて居たが、北滿購買力の根源をなす特產物の海外輸出更に振はず、加ふるに支那側輸入商の疲弊の度が益々加はりて、見越輸入をなす餘裕すらなきものか目立つた輸入品も見當らず頗る沈滯せる商狀を呈した。一方キタイスカヤ街に於ては露曆クリスマス(一月七日)を直前にして例年ならば可成りの荷動きを見るも、重要顧客を包含する東支鐵道に於て又もや大々的馘首說傳はりて更に購買力減退を招致し、益々市

況を沈鬱ならしめ徹頭徹尾不況裡に越年した。

ただ其の間に於て邦人を主要顧客とする邦人小賣商筋の恒例による共同廉賣は物價の低落により賣上げは例年に比し幾分減少を見たるも、大体に於て盛況裡に昭和五年の幕を閉ぢた。

第五章　重要輸入商品市況

一、綿　糸　布

(イ)一般市況

一　月

昭和四年十二月中已に所謂金解禁相場現出し、一月中は幾分漸落したが大体に於いて保合を續けた。華商筋に於いて舊正月明け後の手當品(主として夏物)として晒細布晋通細布大尺布縞三綾等の手合せがあつたが、大体に於いて不振裡に越月した。

二　月

內地相場下落、上海標金高に綿糸布の相場としては漸落歩調にありしも、哈大洋が下旬ダリバ

ンクの哈大洋買集め以來狂騰せることゝて舊約定品の引取り入金共に圓滑に進捗した。併し舊正月明け直後のことゝて田舍よりの老客兒(間屋)は尙出揃ひ迄には行かず新規商談は蕭條たるものであつた。

三　月

春季需要期に入り多少の期待を抱きたるも、舊正月前後の成約品未消化と米綿安に阪地相場不安にて一齊に見送つた。中旬に至つて大尺布粗布十六番手糸の如き一部の品に限り、花火的に一時的買現れ好轉の色見えたるも、下旬に入りて米棉の硬化と大阪相場次第に立ち直り產地高にて不出合となり、當地解氷直前に面し荷動き少く且つ哈大洋の下落により買氣阻喪し概して平部に越月した。

四　月

解氷後例年の如く好況を期待され、月初め相當の見込み買付を見たが、相場は次第に內地安に引づられ哈大洋も上伸力なく特產界の不況も伴つて賣行き全くなく、豫想は完全に裏切られた。間屋筋共に手持品處行賣りに出たが、實需筋の無氣力で商內一向引立たず極度の不振を呈した。

五　月

哈大洋が銀安の影響を受けて五十圓台割れの新安値を現出し、引き續く不況に購買力益減退其の上舊五月節句を控へて金融硬塞、既約品の着荷以外に荷動きは更に見へず、滯貨漸增するのみであつた。且つ各品相場の逆轉も甚しく何品とも値の如何に不拘買見送られ、當地市場初まつて以來の大恐慌に遭遇し尙目先混沌としてたゞ暗雲瀰迷不安裡に越月した。

六　月

哈大洋相場も一時四十圓台の新安値に暴落したが、月末南方銀の急反發により幾ゞ氣配長化したるを以つて數ケ月に亘る買控へに一時に買ぎざし、粗布十六番手綿糸等は相當手合せを見たが右は一時的値頃思惑買ひに過ぎず、再び哈大洋の下落に伴ひ大勢に逆行出來ず閑散裡に越月した。

七　月

當地も永らく買ひ手控への反動と、內地高に連れ又關稅高見越により、思惑買出動し久々にて先物取引行はれ、漸次市場回復の色が見えたが、產地高の割合に相場上伸せず閑散ながら手堅く

越月した。

八　月

阪地高につれ一時市況も睦り勝ちで關税高見越輸入及之に伴ふ買戻しの反動で、入荷數は前月に比して約三倍方の增加に及んだが、實需期を控へつゝ降雨多量でつたあ爲め奥地への荷動き思はしからず結局在荷過多を招來した、結果華商筋は利喰急ぎのため賣りあせり氣味となつて相場ヂリ安不振裡に越月した。

九　月

久しきに亘る買控へと河筋既約品轉賣濟の後とて、品薄關係より四圍の事情に刺戟されて一時に買氣を喚起し、大尺布粗布四綾才六番手綿糸等引成りの見込買付けを見るに至つたが未だ實需添はざるため高値飛付かず、月末に至り再び又銀の不勢に利喰轉賣物出でゝ市場は軟化するに至り且つ節句前にて金融逼迫による華商の商内手控へにて閑散裡に越月した。

十　月

從來青田買賣によつて地方農民も比較的早くより金融も出來たが、本年は青田買賣も行はれず

金融は極度に硬塞され且つ特産物の海外輸出の不振は農産物の未曾有の安値を招致し、地方農民の購買力減退は實に想像以上に達した爲め、農民を主要顧客とする綿糸布は既約品受渡し以外に新規取引更になく實に慘憺たる市況であつた。

十　一　月

例年ならば結氷前後には相當の荷動きを見るべき筈なるに、本年は漸く既約品の消化のみに止まり、先物は勿論現物ですら殆んど新規商内を見ず越月した。特産出廻期に際しても特産は依然輸出不振相場安にたゝられ銀安の禍根去らず、華商をして益々萎縮せしめ目先暗憺として回復の色更に目へず全く施す術もなき有樣であつた。

十　二　月

銀塊の慘落に伴なつて哈大洋も空前の安値を招致し、特産界も未曾有の不振を續けて悪材料嵩みに嵩みて金融は極度に硬塞され取引は全く杜絶の有樣となつた。先物取引に至りては新輸入關税實施(昭和六年一月一日)で多少早越輸入が行はれると思つたが、過去の失敗と尙目先暗憺として特産界銀市の不安で更に買付かず、現物小口の當用買のみに止まり、全く施す術もなく呆然と

成行きに委せつゝ越年した。

(四)主要銘柄各月中の最高最低相場(邦貨建)

(A)綿布

		象冠尺布大	三輪尺布大	支珠粗布	遠鈴粗布	重人細布	月輝細布	人面細綾	聚寶細綾	公司堂晒細布
一月	最高	二、二五	二、二〇	一	六、五〇(平均)	八、〇〇	七、一〇	五、六〇	五、六五	一
	最低	二、一五	二、一〇	一		七、八五	七、〇〇	五、五〇	五、五五	一
二月	最高	二、二〇	二、一八	一	六、五五	八、〇五	七、三〇	五、五〇	一	一
	最低	二、一〇	二、〇八	一	六、四五	七、八五	七、一〇	五、一五	一	一
三月	最高	二、二〇	一	八、三〇	六、三〇	八、〇〇	七、三五	五、〇〇	一	一
	最低	二、一五	一	八、〇五	六、一五	七、九〇	七、二〇	四、八〇	一	一
四月	最高	二、二〇	一	一	六、一五	八、〇〇	七、二〇	四、九五	一	六、八五
	最低	二、〇八	一	一	六、〇〇	七、五〇	六、九〇	四、六〇	一	六、四〇
五月	最高	二、一五	一	八、〇〇	六、〇〇	一	七、一〇	一	一	六、四〇
	最低	一、九〇	一	七、二〇	五、四〇	一	六、三〇	一	一	五、八〇
六月	最高	一、八五	一	六、五〇	四、八五	六、八〇	一	四、三五	一	五、七〇
	最低	一、六〇	一	六、〇〇	四、二〇	五、九五	一	四、〇五	一	五、三〇
七月	最高	一、八五	一、八〇	六、七〇	四、八〇	六、七〇	六、〇〇	四、四五	一	一
	最低	一、七五	一、七〇	六、二五	四、三〇	六、〇〇	五、五〇	四、〇〇	一	一
八月	最高	一、八八	一、八五	七、一〇	五、〇五	六、八〇	六、二〇	四、五五	一	一
	最低	一、八二	一、八〇	六、八〇	四、七〇	六、六〇	六、〇〇	四、四五	一	一
九月	最高	一、九〇	一、八七	七、二五	五、〇五	六、八〇	五、九〇	四、七〇	四、六五	六、〇三
	最低	一、八三	一、八〇	六、九五	四、八〇	六、五〇	五、六五	四、四五	四、四〇	五、八五
十月	最高	一、八七	一、八五	七、四〇	四、八五	六、六〇	五、七〇	四、六〇	四、五五	六、三〇
	最低	一、七六	一、七二	七、〇〇	四、七〇	六、五三	五、六〇	四、五五	四、五〇	六、一五
十一月	最高	一、七五	一、七三	七、五〇	四、七〇	六、八〇	五、六〇	四、五五	四、六〇	六、三八
	最低	一、六八	一、六四	七、三五	四、六〇	六、六〇	五、四五	四、五〇	四、五五	六、二〇
十二月	見當相場									

		16S 銀月	16S 鹿塔	20S 銀月	20S 福助	20-3 双雁	42-2 鶴鹿
一月	最高	一八三〇〇（平均）	二〇〇〇〇（平均）	二一〇〇〇（平均）	二一五〇〇（平均）	二三八〇〇	二三五〇〇
	最低					二三五〇〇	二二〇〇〇
二月	最高	一九〇〇〇	一八三〇〇	二二五〇〇	二二〇〇〇	二三〇〇〇	二三〇〇〇
	最低	一八〇〇〇	一七八〇〇	二〇五〇〇	二〇一〇〇	二二四〇〇	二〇五〇〇
三月	最高	一七八〇〇	一七七〇〇	一九五〇〇	一九三〇〇	二二五〇〇	二二五〇〇
	最低	一七五〇〇	一七三〇〇	一八七〇〇	一八五〇〇	二〇五〇〇	二〇〇〇〇
四月	最高	一八二〇〇	一七八〇〇	一九八〇〇	一九六〇〇	二二五〇〇	二二五〇〇
	最低	一七五〇〇	一七一〇〇	一九二〇〇	一九〇〇〇	二二二〇〇	二二〇〇〇
五月	最高	一七七〇〇	一七三〇〇	一九四〇〇	一九三〇〇	二二三〇〇	二二〇〇〇
	最低	一六二〇〇	一六〇〇〇	一七八〇〇	一七八〇〇	二〇〇〇〇	二九〇〇〇
六月	最高	一四六〇〇	一四三〇〇	一七六〇〇	一七五〇〇	一九五〇〇	二九〇〇〇
	最低	一二八〇〇	一二五〇〇	一四〇〇〇	一四〇〇〇	一六五〇〇	二六五〇〇
七月	最高	一四四〇〇	一四三〇〇	一五二〇〇	一五〇〇〇	一七七〇〇	二五八〇〇
	最低	一二八〇〇	一二六〇〇	一四六〇〇	一四五〇〇	一七〇〇〇	二五五〇〇
八月	最高	一五三〇〇	一四八〇〇	一五七〇〇	一五六〇〇	一八〇〇〇	二七〇〇〇
	最低	一四六〇〇	一四五〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一七五〇〇	二六五〇〇
九月	最高	一四七〇〇	一四六〇〇	一五七〇〇	一五六〇〇	一八九〇〇	二八〇〇〇
	最低	一四二〇〇	一四一〇〇	一五三〇〇	一五二〇〇	一八三〇〇	二七五〇〇
十月	最高	一四五〇〇	一四三〇〇	一五四〇〇	一五五〇〇	一八七〇〇	二八五〇〇
	最低	一三八〇〇	一三六〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一八三〇〇	二七〇〇〇
十一月	最高	一三五〇〇	一三三〇〇	一五二〇〇	一五一〇〇	一七九〇〇	二四五〇〇
	最低	一三二〇〇	一三〇〇〇	一四七〇〇	一四七〇〇	一七五〇〇	二四〇〇〇
十二月見當相場		一三一〇〇	一三〇〇〇	一四二〇〇	—	一七〇〇〇	二四〇〇〇

	(B)綿糸
	一五五
	一五二
	七〇〇
	四四〇
	六三〇
	一
	四三〇
	四三五
	五八〇

(八)昭和五年綿糸布到着數量

一、月別綿糸布輸入高

	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
一月	三、〇五一	四、九五六、五	二、五三八	二、二八四
二月	五、二四〇	四、三五六	五、八一九、五	四、八四二
三月	五、六四九	三、九二六、五	五、五九四、五	五、八二七
四月	四、六三九	四、七一八、五	三、五六九	四、八八九
五月	一、三六七、五	五、一一二	三、二五八	五、〇七四
六月	二、一〇二	二、七三五、五	三、五四九	四、五五六
七月	四、八五七、五	二、三二三	五、一三九、五	五、〇六八
八月	一、四七六	四、三三一	八、七六四、五	六、四九四
九月	八、三四四	一、六七二	七、六三〇、五	四、一三二、五
十月	四、七四一、五	二、八八一	四、六一三	四、三六一、五

十一月	三、四九二	一、九七四、五	四、二四二、五	三、五八二、五
十二月	三、四六五、五	一、三九一	六、二七七	三、三九六、五
計	五八、四二五	四〇、三七八、五	六〇、九九五	五四、四六六

(註) 綿糸を太俵建としたるため端數を生じたり。

一、品種別綿糸布輸移入數量

(A)綿　糸(太俵建)

	昭和五年			昭和四年			昭和三年			昭和二年		
	撚糸	平糸	撚糸	平糸	撚糸	平糸	撚糸	平糸	撚糸	平糸	撚糸	平糸
一月	一六一	四三〇	二三二、五	二五三	三三	八〇	七〇	二二五
二月	三二四	二八五	二二〇、五	三七二、五	六三	七六八、五	七八	九四八
三月	二四五	八六八	六七、五	四一五	一四四、五	五八八	九三	二九〇
四月	一〇七	九一一	七六、五	二六四	三九	二八三	九六	四三九
五月	一一四	一六八、五	一一九、五	五二三、五	一四二、五	二五五、五	六八	五〇〇
六月	一六〇	三二四	九九、五	四四四	二八九	三九四	一三九	三〇〇

七月	二四六、五	三九〇	五九	一五〇	三九、五
八月	五〇九、五	五一九、五	一四二	二九六	一二六、五
九月	三九二	六五〇	八一	一四四	二二三、五
十月	三三四	六二〇、五	二二三	一八一	一〇一、五
十一月	一六一	六一七	二一六	一六一、五	二〇五、五
十二月	一七一	七七八、五	一四八	二二八	二八八
合計	二、九一五	六、五六二	一、五七五	三、五三二、五	一、六九五、五

(B)綿布

1、細布

	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
一月	四一九	七二五	三七四	二六九
二月	八〇六	七八〇	六二四	八七五
三月	八九九	八九九	五六二	七一一
四月	九三二	一、一〇九	六三六	六四六

五月	三四五	八七一	一、〇〇四	七六五	四、〇六一
六月	五〇五	四四二	八七〇	一、一三四	四、一二五
七月	五四三	七一九	八九四	三九六	四、一二六
八月	一、四二〇	四六〇	一、二九七	三六四	四、一二七
九月	八四八	二七三	六一二	三四三	四、一二八
十月	二二二	二四四	三五四	四八七	四、一二九
十一月	七四	七七	四六一	三六七	四、一三〇
十二月	二二九	一四一	二六一	七二一	四、一三一
合計	七、二四二	六、七四〇	七、九四九	六、九七八	四、一三二

2、粗布

	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
一月	五五九	八八七	六五〇	四四九
二月	九五二	四九七	一、八二五	九五四

三、大尺布

	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
合計	二、七〇九	九、三七二	一五、一九三	二、二四一
十二月	一、二六五	三一〇	一、七三一	七三一
十一月	八二六	八八三	一、三二三	九五九
十月	一、〇二九	六八〇	一、二八二	一、〇三四
九月	一、四六一	三六七	一、八八一	九〇二
九月	二、四二三	一、二八七	一、五二七	一、三三二
七月	一、二二七	五二二	一、〇八八	七九九
六月	七七八	五二八	七七七	六六九
五月	二七二	一、三四一	六四〇	一、〇〇二
四月	九三二	一、一六一	七〇四	八五五
三月	一、〇八五	九一〇	二、七六五	二、五五五

	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
合計	四、八二九	三、一五三	六、二四八	四、一〇六
十二月	三二五	一七〇	一、三七三	四二七
十一月	二九〇	二六三	五六三	五二五
十月	四六二	六〇	五二五	四二〇
九月	六〇一	八〇	四九五	二二九
八月	八一九	二八八	六九九	六八一
七月	三四五	一五六	四五四	四四七
六月	六〇	二九四	二二五	一〇八
五月	一七七	五三四	二四六	一六五
四月	二八七	七二七	四八九	四二三
三月	六九一	四四	五二六	二二五
二月	四九七	一九〇	二七二	一二七
一月	三七五	二四七	三八〇	一七五

四、鯨

	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
一月	一五〇	三五七	六五	二〇二
二月	一六〇	一四六	—	二八二
三月	三五二	一七五	二三五	二〇一
四月	一三六	一九五	三七八	一三八
五月	一二	五七	一〇九	二三三
六月	一〇六	五三	二二一	五五〇
七月	二六五	四六	三九一	七四五
八月	六〇六	二八四	七〇六	九三四
九月	四〇七	一四二	七四六	五五〇
十月	六五	二二六	四九九	四五
十一月	一〇一	二三	一二九	六五

五、太鯨

	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
一月	五〇	一九〇	一四〇	六五
二月	一	一三五	七五	一五〇
三月	三	一七一	三五	一三〇
四月	一	一二四	九〇	一七三
五月	一	一	五〇	一九五
六月	一	一〇五	一〇〇	七〇
七月	一八五	一	八四	八五
八月	一、一〇四	一	一八〇	一八八
九月	一一五	二	二二五	一二八
十二月	七八	一一二	七四	一二四六
合計	二、四二八	一、七一六	三、五五三	四、一九一

十月	一一五	一	二二一	二四三
十一月	九〇	一	三〇	一四六
十二月	三八	一	二一九	二二九
合計	一、七〇〇	七二五	一、四三九	一、八二二
六、中國土布				
	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年
一月	二三〇	一	二〇	四一五
二月	六三九	一	四五二	六八
三月	三八九	一	三二〇	六〇一
四月	二二〇	一	一〇〇	一、〇四八
五月	一一	三四七	一一七	一、二二一
六月	七九	六〇	一〇	六二五
七月	一、〇〇四	一	六六〇	一、二一五
八月	二、五四〇	八四二	一、七四一	一、二四五

九月	二、四一三	二〇五	九四一	一、〇二〇
十月	八四七	七六一	二二一	九一一
十一月	一五〇	二五	一	二二五
十二月	二九八	一一七	二二八	一六〇
合計	八、九一九	一一、二六七	四、七二一	九、一九四
七、小尺布及繃袋布				
		小尺布	繃袋布	
一月		一〇二	一	
二月		二四二	一	
三月		一	一	
四月		一	一	
五月		一一	一	
六月		二七	一	
七月		一九二	一	

六	五	四	三	二	一	十	十一	十二	合計	八、加工品	月	月	月	月	月	月	月	月	月
五三	三六八	一〇〇四	一〇一七	一三四五	六七五	九七〇	九〇四	二七八	一〇〇五五		昭和五年								
七一〇	一三九	一〇六二	一二四五	二一一五	一九七二	三八〇	三一六	一六五	一一一九四		昭和四年								
六六三	六九四	八五〇	一四一九	一七三四	七九六	一〇七六	一〇一四	一七九九	一五一三〇		昭和三年								
八四一	八一五	一〇〇一	一〇三一	一三五八	四一四	七四五	六九七	二八九	九三〇九		昭和二年								

七	八	九	十	十一	十二	合計	二、砂糖												
五六〇	一三八九	一四二五	一〇三七	九〇四	二七八	一〇〇五五													
六七二	六三二	三八〇	六〇六	三一六	一六五	一一一九四													
一〇七八	二一〇六	二一〇三二	一三三七	一〇一四	一七九九	一五一三〇													
七四五	九七七	六〇二	五三五	六九一	二八九	九三〇九													

イ、一般情況

昭和五年中の當哈相場に於ける砂糖市場は七、八月に可成りの好況を呈したる外は例年に比して概して不振であつた。殊に例年標準月手當高取引の旺盛なる十二月の如きも當市初まつて以來の閑行き不振で、相場はV.P.一俵十一圓二十錢と云ふ最低記録を留め、年初の十五圓五十錢に比して二割以上の下落を示した。右不振の原因としては

一、特産物の輸出激減

一、哈大洋及官吊暴落に基く購買力の減退

一、華商の疲弊甚しく輸入商筋が現金取引を勵行せること

等の數點が擧げられて居る。今昭和五年各月の市況概要を述ぶれば左の如し。

一　月

車糖、哈爾濱は舊正月手當需要期節にあり、月初め世界的安値相場にはあまり左右されなかつたが、それでも月初めより二十錢安にて越月し、昨年(昭和四年)に比し更に不振であつた。東行も已に開通し入荷期待にて相場は先安氣配を示しつゝあつた故先物取引は全然行はれなかつた。

双目糖　車糖安につれて前月末より一布度十五錢の大暴落を演じた。

二　月

車　糖

世界の砂糖相場は依然安値相場保合ひを持續し、哈爾濱も亦大保合ひで十五圓の一本鎗で通した舊正月以前警戒氣味で問屋筋は華商に對して現金賣りを勵行したため、一ケ月中の取引は例年

に比して減少したが、本月に入り決濟も大体に於て無事に完了したので、前半の半ケ月は反動的に例年以上の取引を見た後半に至り一時賣行き不振に陥つたが、月末に近づくに從ひ哈大洋昂騰に田舍客の買氣つき可成りの盛況であつた。

氷　糖

從來日本製品の獨占市場の如き觀があつたが、太古糖が盛んに輸入さるるので遂に月初めより二十錢安の相場を現出した。

更目糖

南洋ジャバの更目糖安の報を入れて中旬より弱氣配となつた。

角　糖

一般砂糖安と太吉糖入荷の聲に脅かされて前月に比し三十錢の低落を見るに至つた。

三　月

車　糖

世界の砂糖相場は前月に引續き安保合を持續したが、哈爾濱にては解氷前で奥地向け引合も相

當あり且つ加ふるに三月十五日より東支鐵道南部線冬季特定運賃が撤回さるゝとの報ありて、上旬中は案外活潑な取引があつた從つて相場も日本内地相場に比して割高を維持した。下旬に至るや入荷益輻輳、加ふるに道路泥濘に基く馬車賃昂騰、哈大洋安等が原因となり取引殆ど中絶の觀かあつた。

更　目　糖

ジヤバ相場下落に從つて漸落。

氷糖角糖

前月に引續き大古糖の入荷に壓迫されて下落を見たが月末にはやゝ落付きを見た。

四　月

車　糖

先月下落より本月中旬に入り松花江氷上禁止の爲め取引中絶の狀態にあり、川開き後は相當活況を呈するものと期待されて居たが、開江後は意外にも全く豫想を裏切つて殆んど取引を見ず頗る不況であつた。

更　目　糖

相場は大体に於て一段落となつたが、運賃値上げの爲布度當り十錢方の上騰となつた。

氷糖角糖

荷動き殆んどなく月中相場は保合であつたが先安の見込みである。

五　月

車　糖

世界的不況の爲め相場は依然落調を辿り、到る處生産費を割り尚且つ下押一方で底止する處を知らない有樣である。而かも當地は哈大洋安の爲め一層買氣阻喪し、例年五月は端午節句の手當品取引が可成り成立するにも拘はらず、今年は不振も甚しかつた。下旬に至り哈大洋更に暴落するや市中相場は全くまちまちで混亂狀態に陷り、新規金建賣りは絶對に出來ず輸入商傍觀の態であつた。

更　目　糖

一時三圓零五錢迄上騰したが、大連より入荷ありしため又も漸落し初めた。月中華商筋の手持

品が少々動いた程度で新規取引殆んどなし。

角　糖

在荷、買氣共に少く相場動かず

氷　糖

大洋の暴落を恐れて新規買付け殆んどなし。

六　月

車糖哈大洋の慘落にて支那側の買氣全く阻喪し、新規買付けは勿論既約品の受渡しすら困難を感ずるに至つた。

チエツクマン商會其他の外商は不況對策として太古糖の銀建賣を實行しつゝある故尚多少の取引を見たが日本糖は依然金建賣りが勵行されつゝある故月中殆ど取引らしき取引を見なかつた。

月末に至り哈大洋稍安定し一俵(YP)一二、圓五〇見當にて少々買氣付きたるも、あまりの安値に問屋筋の採算賣惜しみにて商談成立したるものは極めて僅少であつた。

角糖氷糖

月中殆ど取引なし。

七　月

車　糖

哈爾濱は長期に亘る手控へで、支那商筋の**ストツク**品薄すを告げつゝあつたが、下旬哈大洋相場が四四圓台に上騰するや奥地全般一齊に買氣つき且つ問屋筋も賣り急ぎたる爲め、一時は在荷大部分一掃され閑散明なるにも不拘案外活況を呈した。

氷　糖　商狀には太した變化なかりしも相場は**ヂリ**安。

更目糖　一時品薄のため前月末の二圓六十五錢より上旬二圓八十五錢迄**セリ**上げられたるも、其後入荷あると共に又**ヂリ**安となつた。

角　糖　殆んど取引なし。

八　月

車　糖

前月同樣松花江河筋方面に於て久しきに亘る買控への爲の**ストツク**少なく、幾分買氣台頭せる

處に銀相場安定せる故一齊に買氣つき現物（約一萬俵）、先物（約一万俵）共に可成りの取引が出來た。從つて當地在荷も殆ど一掃せられた。

更　目　糖

現物高先物安で問屋筋では手持出來ず在荷拂底。

角　　糖

商況相場共に變らず。

氷　　糖

在荷拂底なるも大した賣行きもなく保合。

九　　月

車　　糖

在荷過多の爲め海外相場は依然弱調を示した。併し日本內地に於ては警戒氣分濃厚で實需手當不足せる爲め仲々强張り、當地も亦需要旺盛期たる仲秋節を直前にして手當品取引ポツポツありたるため、產地相場より見るときは當然下向くべき相場が保合を持續するに至つた。

仲秋節季の需要は財界一般の不況、金融硬寒により前年より少かつた。

更　目　糖

ジヤム原料として需要最も旺盛なる時期にして、月中約四五千俵の取引を見た。需要不足で相場は月初め二圓六十錢のものが二圓九十錢迄上騰したが、月末入荷の聲に脅かされて二圓六十五錢迄低落した。

水　　糖

相場は尙先安見込なるも日本內地の手持ち少なきため辛ふじて保合。

角　　糧

相場商況共に變動なし。

十　　月

車　　糖

消化依然面白からざるためジヤバ原產地相場は遂に八ギルを下廻るの恐慌狀態を呈した。哈爾濱に於ても松花江終航手當品取引も中旬で一段落を告ぐるに至つたので、問屋筋がストツク整理

のため賣りあせり前述の如く十錢方下落を見た。然るに中旬キユーバに於て一万五千屯を明年に持ち越しの決議をし、其の結果ジヤバ糖も反騰し加ふるに近く實施される關稅値上見越しも手傳つて仲々强氣を示した。

更目糖

ジヤバ新糖潤澤に入荷せるため相場下落月中取引約二千俵。

氷糖

在荷薄日本高なりしも殆ど保合。

角糖

最近ポーランド品が入荷した模樣なるも日本の角糖は殆んど荷動きなし。

十一月

車糖

元來一年中の閑散時期であり、加ふるに特產物取引の不振で奥地の金融逼迫せる爲め買氣は例年以上に阻喪し、取引は昭和四年に比して非常なる減少を見た。殊に道外の一般華商の營業狀態

不安の度が層一層と濃厚となり、對華商との取引は一切現金取引に據らざるを得ない狀態に至りたることは取引減少の重要原因をなして居る。惹いて相場も亦頗る凡調、月中クギ付けであつた昭和六年一月より實施されると導さるゝ關稅高見越しと十二月十日より實施さるる東支鐵道南部線の季節運賃安によつて强弱材料が交錯せるため月末には氣迷狀態が漂つて居た。

角糖

相場市況共に動かず。

更目糖

入荷賣行き共に不振相場動かず。

氷糖

日本糖太古糖共目ぼしき取引なし。原糖相場より見るときは哈爾濱相場は更に下向くべき筈なるに、關稅高見越で辛ふじて保合つた。月末在荷約一千箱。

十二月

車糖

特産安、哈大洋安、金融逼迫等の惡材料充滿し、需要時期なるにも不拘す賣行きすこぶる不振取引高は十一月の三分ノ一に減少し未曾有の不況であつた。世界的大勢よりすれば當地の相場は當然保合ふべき筈なるも、前述の如く未曾有の賣れ行き不振を示し、加ふるに長哈間の馬車輸送利用にて運賃低減せるため、相場は大勢に逆行して落調を示した。

昭和六年一月一日より新關税實施によつて砂糖類(關税)は舊關税に比し

七割乃至十割七分高

となり、車糖は一俵につき從前一圓五十五錢のものが三圓二十錢を課せらるゝことゝなつたが、新關税率が實施間近く迄嚴秘されたると當地砂糖界極度の不振で見越輸入らしきものを見るを得なかつた。

更目糖

海外市況落付き哈爾濱も保合つたが、前述の馬車輸送旺盛にて入荷頗る多く十錢方下向いたが下旬に至るや舊正月及クリスマスの需要手當品の取引約二千俵をり、早くも品薄すを告げ强氣配のまゝ越年した。

氷糖

ストツク僅少なるも取引殆んどなし。

角糖

市況は大した變化を見ざりしも、相相は車糖相場に追隨して急落したるも年末近づくと共に强氣配を示しつゝ越年した。

(ロ)昭和五年中砂糖現物相場及各月車糖現物出來高

前述の如く七、八月に意外の好況を見たるも、一ケ年を通じて概して商況不振を示し、從つて相場も年初より漸落一方にて遂に年初より各品とも二割乃至三割の値下りを見た。今參考のため一ケ年の相場の推移を見れば左の如くである。(各旬平均相場邦貨建、角糖及更目糖は當市消費税付き)

	車糖(Py一俵)	(角糖一箱)	更目糖(一布度)	氷糖(一箱)
一月上旬	一五、五〇	四、三〇	三、二五	八、三〇
中旬	一五、四〇	四、三〇	三、二〇	八、三〇

月	旬																								
二	上旬	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一四九〇	一四八〇	一四七〇	一四六〇	一四五〇	一四四〇	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇
	中旬	一五〇〇	一五〇〇	一五〇〇	一四九〇	一四八〇	一四七〇	一四六〇	一四五〇	一四四〇	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇
	下旬	一五〇〇	一五〇〇	一四九〇	一四八〇	一四七〇	一四六〇	一四五〇	一四四〇	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇
三	上旬	一四九〇	一四八〇	一四七〇	一四六〇	一四五〇	一四四〇	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇
	中旬	一四八〇	一四七〇	一四六〇	一四五〇	一四四〇	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇
	下旬	一四七〇	一四六〇	一四五〇	一四四〇	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇
四	上旬	一四六〇	一四五〇	一四四〇	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇
	中旬	一四五〇	一四四〇	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇
	下旬	一四四〇	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇
五	上旬	一四三〇	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇
	中旬	一四二〇	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇
	下旬	一四一〇	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇
六	上旬	一四〇〇	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇
	中旬	一三九〇	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇
	下旬	一三八〇	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇
七	上旬	一三七〇	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇
	中旬	一三六〇	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇
	下旬	一三五〇	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇
八	上旬	一三四〇	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇
	中旬	一三三〇	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇
	下旬	一三二〇	一三一〇	一三〇〇	一二九〇	一二八〇	一二七〇	一二六〇	一二五〇	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇

月	旬																								
九	上旬	一二四〇	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇
	中旬	一二三〇	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇
	下旬	一二二〇	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇
十	上旬	一二一〇	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇	九八〇
	中旬	一二〇〇	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇	九八〇	九七〇
	下旬	一一九〇	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇	九八〇	九七〇	九六〇
十一	上旬	一一八〇	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇	九八〇	九七〇	九六〇	九五〇
	中旬	一一七〇	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇	九八〇	九七〇	九六〇	九五〇	九四〇
	下旬	一一六〇	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇	九八〇	九七〇	九六〇	九五〇	九四〇	九三〇
十二	上旬	一一五〇	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇	九八〇	九七〇	九六〇	九五〇	九四〇	九三〇	九二〇
	中旬	一一四〇	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇	九八〇	九七〇	九六〇	九五〇	九四〇	九三〇	九二〇	九一〇
	下旬	一一三〇	一一二〇	一一一〇	一一〇〇	一〇九〇	一〇八〇	一〇七〇	一〇六〇	一〇五〇	一〇四〇	一〇三〇	一〇二〇	一〇一〇	一〇〇〇	九九〇	九八〇	九七〇	九六〇	九五〇	九四〇	九三〇	九二〇	九一〇	九〇〇

十一月下旬	二二、四〇	三、八〇	二、五五	六、四〇
十一月上旬	二二、三〇	三、八〇	二、五五	六、四〇
十一月中旬	二二、三〇	三、八〇	二、五五	六、四〇
十一月下旬	二二、三〇	三、八〇	二、五五	六、四〇
十二月上旬	二二、二〇	三、八〇	二、五〇	六、三〇
十二月中旬	二二、〇〇	三、八〇	二、五〇	六、二〇
十二月下旬	二一、二〇	三、二〇	二、四〇	六、〇〇

次に各月の當地に於ける事業出來高及各月末現在の在荷數を見るに大体次の如くである。

	出來高	月末在荷
一月	二五、〇〇〇俵	二〇、〇〇〇
二月	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
三月	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
四月	七、〇〇〇	一〇、〇〇〇
五月	五、〇〇〇	八、〇〇〇
六月	三、〇〇〇	一三、〇〇〇
七月	七、〇〇〇	五、〇〇〇
八月	一〇、〇〇〇	二、〇〇〇
九月	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
十月	八、〇〇〇	八、〇〇〇
十一月	六、〇〇〇	一〇、〇〇〇
十二月	三、〇〇〇	一〇、〇〇〇

三、青果類

(イ)林檎

(一)昭和五年中當地方輸移入林檎の需給状況

七月	朝鮮産	二五箱	北海道産	一
	南溝産	一箱	支那産(箱入り)	不明

八月	一	二〇〇	一	九、〇〇〇
九月	四、二〇〇	四、五〇〇	一	不明
十月	一一、五五〇	六、七二四	一、〇三〇	ナシ
十一月	三三、〇〇〇	二七、〇〇〇	四、五〇〇	ナシ
十二月	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
計	四八、七七五	三八、四二四	五、五三〇	九、〇〇〇

此外に山東直隷兩省より移入されたる籠入り支那林檎あるも之を除外して前年度と對照すれば約四万箱の輸移入減退となつて居る。其主要原因は朝鮮に於ける近來になき不作と當地通貨たる哈大洋安による購買力減退にて、之を更に前數年に溯つて比較すれば昭和四年度までは左の如く夥しき増加となつて居る。即ち(何れも支那産籠入り林檎を除く)

大正十年	二四、五〇〇箱
同　十五年(昭和元年)	七二、五〇〇
昭和二年	八四、一〇〇

同　三年	九九、七〇〇
同　四年	一四七、六五〇
同　五年	一〇一、七二九

昭和四年は輸入時期に際し露支紛爭事件で東支、烏鐵の連絡杜絶し北海道産の輸入を見ざりしも、今年は前述の如く五五三〇箱の輸入を見、南滿産も亦朝鮮の不作に乘じて四年中の四五五〇箱より一躍三七八二四箱に激増した。

(二)昭和五年中に於ける各地産林檎の相場(邦貨建)

一、朝鮮産林檎

		紅玉	倭錦	國光
九月	高値	三、八〇	薪紅玉	薪倭錦
	安値	三、五〇	三、五〇	三、六〇
十月	高値	四、〇〇	三、五〇	三、五〇
	安値	三、五〇	三、〇〇	

十一月	高値	四、五〇	三、六〇	四、三〇
	安値	四、〇〇	三、五〇	四、〇〇
十二月	高値	四、五〇	三、五〇前後	四、〇〇前後
	安値	四、〇〇		

二、南滿產

八月出廻り當初新紅玉が一箱三圓四十錢で取引されたるを初めとし、九月に入りて朝鮮產の不作に乘じて

	紅玉	新紅玉	倭錦	新倭錦	國光
高値	四、三〇	四、〇〇		三、七〇	
安値	三、六〇	三、五〇		三、五〇	

一の如く稍高値を示したるも、十月以降は朝鮮產と同値にて取引された

三、北海道產

朝鮮產と同値。

四、支那產

七月の出廻り當初にては支那斤一〇〇斤に付き

上物	哈大洋二十一元乃至二十三元	
安物	同	十四元乃至十五元

を稱へたるも八月、南滿產の入荷を見るや二、三元方の急落を見た。

九月以降品拂底にて相場立たず。

參考

昭和六年一月一日より輸入新關稅實施の結果、朝鮮產は北海道產と共に一箱に付き約六十錢の關稅を課せらるゝことになり非常なる打擊を受け、之に反して南滿林檎は非常に有利なる立場となりたるを以つて、新出廻期より當地に於ける林檎の輸入系統一變するに至るであらうと見られて居た。

(ロ)蜜柑

(一)昭和五年度に於ける輸入數量

哈爾濱市場に於ける柑橘類としては日本產蜜柑及金柑、米國產ネーブル及レモン、上海蜜柑等で、內日本蜜柑はその全輸入數量の大部分を占めて居る。最近四ヶ年に於ける日本蜜柑の輸入數量は大体左記の通りである。

昭和二年度	八、〇〇〇梱
昭和三年度	一〇五、五〇〇同
昭和四年度	四七、三〇〇同
昭和五年度	六二、〇〇〇同

右の如く、昭和四年度に於ては原產地の不作、南滿及朝鮮林檎の豐作に依る入荷過剩、露支抗爭に依る浦鹽經由輸入杜絕に禍され、更に昭和五年度は一般經濟界の大不況及世界的銀安に依る當地通貨の暴落、尙本年度の特殊事情としては關稅率の改訂引上げ（九月十五日より實施の安東關稅三分の一減稅撤廢）等ありて右の如く輸入減退を見るに至つた。

（二）賣行概況

市場に於ける消費高は例年全輸入數量の七〇%乃至七五%見當は市中に消費され、殘り二五%

乃至三〇%は東支鐵道各沿線、呼海鐵道沿線、松花江沿岸地方へ再輸出された。（沿線向け移出せらるゝものは凍結したるものを主とす）

種類別に賣行きを見れば溫州斷然多く九〇%を占め、殘り一〇%は八ツ代である。又產地別として紀州（泉州を含むゝもの最も多く全輸入高の九〇%を占め、靜岡ものは一〇%見當である（本年度の靜岡物入荷約六二〇〇梱）

（三）相　場

五年度に於ける相場は大体左記見當であつた。（邦貨建）

		安値	高値
出廻り頭初	上等品	四、二〇—四、三〇	
	普通品	三、二〇—三、三〇	
十一月末	上等品	三、七〇—三、八〇	
	普通品	二、八〇—三、〇〇	
十二月中	上等品	三、五〇—三、七〇	

一月中	普通品	三、四〇—三、六〇
	上等品	三、五〇—四、〇〇
	普通品	三、二〇—三、三〇
凍結したる物	上等品	三、一〇—三、八〇
	普通品	二、七〇—三、四〇
二月中	上等品	三、六〇
	普通品	三、四〇
三月中	上等品	四、〇〇
	普通品	三、五〇

尙出廻り初期に於ける最近三ヶ年間の當地相場を示せば左記の通りである。

昭和三年	上等品	五、四〇	普通品 四、八〇
昭和四年	同	四、八〇	同 三、八〇
昭和五年	同	四、二〇	同 三、三〇

第六章　昭和五年中北滿特產界概況

等しく不況の中にも昭和五年の初頭に當つては、北滿の特產界は尙可成りの活況を呈して居た歐洲市場では大豆も豆粕も相當に高値を稱へ、豆粕も日本市場へ輸出して採算か引合つたものである。

一、二月頃のロンドン大豆相場は尙十二磅を維持して居たので、外商筋は盛んに哈爾濱及東支鐵道沿線にて大豆及豆油を買付けドン〳〵海外市場へ輸出したものである。豆粕も同樣日本及南支方面へ向つて邦人特產商及華商の手で可成り盛んに輸移出された。

歐洲市場に於て安氣配かはつきりと現はれて來たのは三月頃からであつたか、當時にあつては專門の特產商筋でもスツカリ一時的の現象と信じ、引續き弗々ながらも現物を買付けたものである。然るに一時的と見たロンドンの大豆相場安は三月からドン〳〵暴落し、四月に至つても尙も落勢を續け之かため特產商筋は少からぬ損害を蒙つたので、將來を樂觀せる外商筋でも買付を中止した。然るに一方農民は勿論糧棧筋でも一般外商同樣先高を信じて容易に現物を手放さず、

之かため北滿に於ける特産物の相場は常に産地高を維持して居た。

然るに晩秋に入ると共に作物は稀有の豐作であることか判明し、一方歐洲市場はドタ落ちに崩落して來たので、荷主中には現品を手放す機會を失せるもの多く、それかため無量二十万屯の大豆が哈爾濱を中心に東支鐵道沿線一帶に持ち越さるゝに至つた。

試みに昭和五年の年頭と年末に於ける北滿大豆相場の開きを見るに

一、二月頃	哈爾濱渡し	一布度一、元七〇
年末	同	〇、八五

と丁度半値に暴落を示し、一方ロンドン大豆相場は

一月初め	十二磅
年末	六磅零志十片

と之れ亦半値に慘落して居る、而して此間にあつて哈大洋相場は

一月上旬の高値	五六、五五圓
十二月下旬の安値	四三、九七五

に下落して居る。

之かため特産商筋殊に支那側の糧棧に幾多の破産者若しくは半破産者を續出して未曾有の恐慌を現出するに至つたのである。

尙參考のため一九二五年以來各年の大豆一布度平均相場を示せば左の如くである。

大豆年平均相場（哈爾濱渡し現物一布度當り）

一九二五年（大正十四年）	一、元三一八
一九二六年（大正十五年）	一、三二四
一九二七年（昭和二年）	一、四一八
一九二八年（昭和三年）	一、六五〇
一九二九年（昭和四年）	一、七二〇
一九三〇年（昭和五年）	一、四四三

更に一九三〇年即ち昭和五年につき其月別平均相場を見るに左の如き變化を示して居る。

一月	一、元五四二
二月	一、五二八
三月	一、三八六
四月	一、五五五
五月	一、四九一
六月	一、五四九
七月	一、七五二
八月	一、六九八
九月	一、五二一
十月	一、二三三
十一月	一、〇七五
十二月	〇、九八二

次で豆粕について見るも最初の半ヶ年は不況ながらも尙比較的取引も旺盛にて相場も亦可成り

の强調を示したが、新大豆出廻期に當つてそれと時を同じふして收穫される日本內地の米作か開闢以來の豐作とあり、勢ひ米價の暴落を來たし、延いて當地の粕市場の大恐慌を招致するに至つた。即ち日本內地沖渡し相場

一月	三圓七七
一ピクル	二、一九
年末	一ピクル

を稱へたるものか

迄暴落するに至つた。其結果新大豆出廻りと共に黑煙濛々と立ち登る筈の當地八區及東支鐵道沿線の油坊中には夏休みのまゝ操業を休止せるもの多く、北滿の由坊界も亦不振を免かるゝを得なかつた。

大豆と共に最も不振を呈したのは豆油市場であつた。元來此豆油は主として歐洲市場向けに限られて居たものであるが、此方面への輸出減退と共に日本及兩支那市場から新らしい注文が弗々現はれて來た。併し其數量に至つては決して多きを稱するに至らず、之かため豆油市場は稀有の不振を呈するに至つた。即ち

年頭　一布度　六元〇〇前後

を稱へて居たものが

年末　一布度　三元七〇

まで激落するに至つた新大豆出廻期に入つて豆油市場は一層惡化し、歐洲市場向け輸出減退後の北滿豆油の市場としては、日本及南支那の新販路を有するに過ぎず、其需要數量に至つては前述の如く歐洲市場に比して甚だ少なく、其將來は誠に暗澹たるものである。

更に小麥は全く米國小麥に壓迫されて終始手も足も出ざる有樣にて、哈爾濱の需要を充たすのみの麥粉原料としての取引ありたるのみであつた。

最後に昭和五年中に於ける東支鐵道各驛奚東南行數量を知るため、收穫年度に基き昭和四年十月より昭和五年九月に至る一ヶ年間の輸送數量を見るに左の如くなつて居る。

方向別
比率%

	各種豆	豆粕	豆油	小麥	麥粉
十月南行	一五三、九一五・八	一九、四三一・八	一一、一三六・四	—	一一、一三九・五
十月東行	—	—	—	—	—
十一月南行	二五三、九四六・七	四三、八六〇・一一	一一、八五三・三	七、二六三・一一	一四、八〇七・六
十一月東行	—	—	—	—	—
十二月南行	三〇一一、八六四・四	六四、四六三・八	五、一四一・五	一七、四九三・九	一四、一三一・五
十二月東行	—	—	—	—	—
一月南行	一一六、五一四・一	一五、五三五・四	四、七九八・五	一〇、六〇三・八	六、九八一・四
一月東行	四七、四〇九・一一	三一、三一一・九	一七〇・〇	—	—
二月南行	七一一、六四五・七	一一、〇一一〇・六	三、五〇五・四	八、一九〇・一一	七・六七一・六
二月東行	六五、五六〇・四	五八、一九〇・九	七三八・〇	—	—
三月南行	一一九 四八五・〇	一一、一六五・五	五、六九七・四	五、四七〇・〇	三 一四三・三
三月東行	六三、五八・八	八、一一五八・一	一、四五八・一	—	—
四月南行	一一九、三一五・〇	一一、六〇一・五	七、三三五・四	一一、五一〇・八	一、九四四・四
四月東行	五九、九七五・〇	八五、一〇四・〇	一、五六六・四	—	—
五月南行	六、〇九一・八	六四三・三	四、七九四・三	六、一一六・三	五、三〇四・三
五月東行	三一、五八一・三	七〇、六一七・六	一、四九八・五	—	—
六月南行	一、八八三・七	三五八・四	五、〇一五・一一	四、九九七・五	三、八八六・六
六月東行	四三、五六・九	四九、八八三・五	九六六・六	—	—
七月南行	四八、一三八・七	三、七九八・八	六九五・一一	一、〇一六・四	一一、八一〇・〇
七月東行	七一、〇四四・一	一一、〇〇七・八	五四一、一一	—	一・〇
八月南行	一一、六六一・五	一、三〇〇・八	一三一・七	四九八・四	三、〇〇六・〇
八月東行	四八、一七九・一一	三、四一三・一	三一六・四	—	一・九
九月南行	三三、七七三・三	一一、七五八・一一	五〇九・四	八、一七〇・六	四、五〇五・一一
九月東行	五〇、七九九・九	一一、六一四・三	九六・四	—	一六・六
合計南行	一、一六七、一七六・七	一五九、三六・三	四一、六四三・七	七一、六八・一	七〇、七四四・四
合計東行	四八一、六四五・八	四一一、一九一・一一	七、三八・六	—	一九・五
合計	一、七六八、九三五・五	五七一、六八・五	四九、九七一・三	七一、六九・一	七〇、七六三・九

備考

一、東行欄昭和四年十、十一、十二月の三ヶ月は露支紛爭により東行は

二、滿年による管なりしも統計作製に困難を感じたるを以つて收穫年度

[illegible]道廣軌鐵道運行費類月別輸送表（單位キロ屯）

麥	麥粉	麻	蕎麥	高粱	粟	玉蜀黍	黍	米	稻	大麥	燕麥	其他	ナポ[illegible]ラニー打切	合計	比方向%別
—	二一、三九九・五	四、五七三・六	—	二一・五	—	—	—	三〇〇・五	—	四一・八	五七・八	—	—	二三一、六九九・七	一〇〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇
二・三	一四、八〇七・六	五、四七三・八	—	—	—	—	—	三、一三三・一	一一一・一	五六・二	四五一・八	—	四三一、一一六・〇	一〇〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇
三・九	一四、一三一・五	六、〇四六・九	—	四八五・〇	二一六・三	—	—	七、〇三・六	三四四・一	三六・〇	四三一・五	—	四一八、八七七・五	一〇〇
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇
二・八	六、九六一・四	七、六六五・〇	一六五・六	四、八九九・五	一五三・六	—	—	一、五四四・二	一四一・七	二二・五	二四一・一	—	一七九、四五五・四	六六・四八	
—	—	一四七・四	—	—	—	—	—	二一、一九九・八	—	—	五五・二	九三・六	六二、六四一・一	二一・五二	
〇・二	七・六七一・六	八、三六一・〇	一、四三・〇	二、七四四・〇	七六八・一	二二五・二	—	三五五・九	三五・二	一六・八	一九九・二	一	二二八、九九一・九	四七・五九	
—	—	二四七・四	—	—	—	—	—	五、三九八・四	—	—	—	二二一・三	四一、〇六一・四	五二・四一	
〇・〇	三、二四三・三	四、四〇七・三	一、五六・一	二、三七七・九	三、四七七・六	一四九・三	—	三四六・八	—	一九一・六	三六二・〇	一	一六〇、〇二二・八	五〇・三七	
—	—	一、六八八・四	—	—	—	—	—	二二、二二・五	—	—	二一九・一	一五一・九	一五七、六五五・九	四九、六三	
〇・八	一、九四四・四	二、三四二・五	二、三六一・八	八、六六一・六	六、四六〇・三	一五九・五	—	一四一・五	四二〇・七	二一七・二	一四九・一	六四三、五三五・三	二九・九〇		
—	—	七八八・八	—	—	—	—	—	三、六六六・八	—	—	—	一六五・〇	一五一、二六六・〇	七〇・一〇	
六三・三	五、三〇四・三	一、七六二・二	四一五・九	八三・六	四、六〇〇・三	—	—	—	一四四・四	六六・四	六七・七	—	三一、〇四一・五	二二・五六	
—	—	八四七・〇	—	—	—	—	—	一、六一七・七	—	五〇・四	—	一六〇・一	一六〇、四五三・六	七七・四四	
七七・五	三、八六六・六	七一九・八	—	三一〇・四	三、四一五・二	—	—	—	一四二・八	一〇・〇	一〇二・〇	一四七、八四三・六	一七七、九七四・七		
—	—	五六四・四	八九・一	九四四・六	四三七・九	—	一七七・五	六七〇、五	—	—	一・〇	二四四・八	九七、四六二・七	七二・〇三	
六・四	二一、八一〇・〇	二二七・九	—	二四〇・二二	八四六・三	—	—	—	—	一・六	一・八	—	五七、八六七・九	三九・九〇	
—	一・〇	四六〇・二	三六一・三	一、六一四・二二	四三七・九	—	三九・八	四六四・九	—	—	一・〇	一六六・八	八七、一六〇・二二	六〇・一〇	
六・四	三、〇〇六・〇	一、一六二・九	—	—	四〇一・一	—	—	—	—	二一・九	一・五	—	二六、三七七・八	三二・九五	
—	一・九	九二一・六	五四四・〇	一、八六一・八	一、〇三七・〇	—	—	一、一六〇・九	—	八〇・三	—	一二三・一	五七、七四九・三	六七・〇五	
二〇・六	四、三〇五・二二	一四四・〇	二三六・一	一・四四	—	—	—	—	—	一七・五	二四・〇	七〇・〇	一四九、九・七	四一・八四	
—	一六・六	六八四・七	五一六・二二	一、七六・二二	八七七・六	一九・九	二五九・八	一、八六六・〇	四〇・一	—	五九・〇	二二一、七	六九、八六二・四	六六・一六	
六・一	七〇、七四四・四	四三、一一六・九	六、一〇〇・五	四二一、五五・一	一一〇、三六・八	四四四・〇	—	二二、九七七・六	一、四七〇・〇	五六一・五	二二〇・四五	—	一、七六一・四〇・一	六五・一八	
—	一九・五	七、二二四・九	一、四四二・六	六、一六六・八	二、七七〇・三	一九・九	四七七・一	一、八六四・五	四〇・一	一四〇・七	二四・三	一、五六四・三	九四一、三一五・六	三四・二二	
六六・一	七〇、七六一・九	四三、一一六・一	四、七〇七・五	四八、七七一・一	二、一一七・一	四五三・九	四七七・一	三二、七七四・一	一、四一〇・一	一四七・二二	二二、二六・八	一、四六四・三	二六、六六六・七	一〇〇・〇〇	

[illegible]支紛爭により東行社線す
[illegible]るを以つて收穫年度に繰りたり

第七章　重要特産物取引状況

一、豆粕

(イ)出來高及相場(一布哈大洋建哈大洋相場前述參照)

				出來高	相場 最高	相場 最低
一	月	東	行	三、〇一四、〇〇〇	一、二九	一、一六
		南	行	七〇二、九〇〇	一、二九	一、一六
二	月	東	行	二、七四六、八〇〇	一、二九	一、一三七五
三	月	東	行	二、八三二、〇〇〇	一、二一	〇、九七
四	月	東	行	一、三五五、二〇〇	一、二三五	一、一四
		油房買戻し		一五三、〇〇〇	一、二三五	一、一四
五	月	東	行	一、五八一、六〇〇	一、一四	一、〇四二五
六	月	東	行	一、一九七、〇〇〇	一、一七	一、〇二

七月	南行	三八、五〇〇	一、一二二五	一、〇七
	東行	一六〇、二〇〇	一、二四	一、〇七
八月	東行	四四、〇〇〇	一、二四	一、〇九七五
	南行	一八九、三〇〇	一、一九	一、一二五
九月	東行	三九六、〇〇〇	一、一四五	〇、八〇
	南行	八、八〇〇	一、〇六五	一、〇一
十月	東行	七七六、四〇〇	〇、九七五	〇、五九五
	南行	四九、五〇〇	〇、八五	〇、六〇五
十一月	東行	一、一二八、六〇〇	〇、七六	〇、五七五
十二月	東行	二、五五一、六〇〇	〇、六八五	〇、五八
合計	東行	一七、九二八、七〇〇	一、二九	〇、五八
	南行	八四三、七〇〇	一、二九	〇、六〇五
	油房買屋し	一五三、〇〇〇	一、二三五	一、一四

總計	一八、九二五、四〇〇	一、二九	〇、五八

(註)右表及後述の表中東行南行とあるは必ずしも東行したるものにあらずして、東行或は南行の採算にて取引されたるものなることを意味す。

(ロ)一般商況

一　月

東行開通見越、加ふるに銀安と好材料重なりて新年早々活況を呈し、上中旬に亘りて注文殺到更に二十日豆粕に對する輸出附加稅撤廢され概して好況裡に越月した。

二　月

月初め舊正月休みにて品薄を招來せる處に、日本の買氣尙旺んにして油房筋は原料安の有利な立場にありて採算頗るよく、油房界は近來にない活況を呈した。

三　月

上旬歐洲の大豆界不振にて原料大豆定を招來し、ひいて豆粕も下落の一途を辿とり、十日には九十七仙と云ふ最近の暴落振りを示し、日本へ向け多量の輸出を見た。從つて日本內地の粕相場

も一日の三圓八十五錢(沖渡し)より十日三圓五十八錢迄落したが、中旬に至り歐洲筋俄かに賣進みたる結果、油坊筋が賣惜しみ取引高減少せる處に、下旬日本内地に於て外國硫安か屯當り七圓の値下げを見たために取引高激減した。

四　月

日本内地の硫安安の爲めに買氣なく且つ歐洲向買氣杜絶と共に相場は下押一方にて、三月末豆を買つたものは一枚に付五、六錢の損害を被るの狀況にて賣物少く、賣つたものも買戻しする樣な次第で相場月中逆サヤで商内閑散であつた。

五　月

例年五月は日本内地の米作肥料として可成り取引旺盛なるを常とするが、本年は日本内地粕値下りのため四月浦鹽積み出しの豆粕中新潟地方約五十萬枚、東北地方に於て十四、五萬枚渡りとなりたる影響を受けて、日本内地全般に亘つて賣り逃げるもの多く、延いて當地豆粕市場も受け渡しに全力を注ぐのみにて、新規商談は寥々たるものであつた。

六　月

日本内地に於ける五月中の實需不足を補ふため、成行き買注文殺到し例年と大差なき取引を見た。

七　月

當地油房筋の賣り惜しみと日本内地に於ける供給不足によりて當地相場一元二十四仙の高値まで暴騰したが、概して昨年に比して出來高少なく油房は休業同樣に陷つた。

八　月

日本内地は全般的に亘つて不需要期であり且つ連日の降雨で原料大豆高を招致して油房の製造力鈍り賣買共に氣乘り薄であつたが、下旬も半ば過ぎに天候漸く定まり且つ日本内地に於ては不需要期なるにも拘はらず相場のみ高保合を呈せる故、急に活氣づき二十五日一日のみにて六万枚の取引を見る程の活況を呈した。

九　月

日本内地は既に小麥肥料の需要期に入れるも、米價安にて一般農家が疲弊せる處に硫安安魚肥安の不良材料山積し、先物契約の如きは一齊に顧みられず實需富用買にのみ終始した。

十　月

上旬仲秋節、双十節と連續的に祝祭日があり、油房の製造高減少せる上に日本の米作收穫豫想發表の結果、米の暴落を招致せる影響を受けて出來高著るしく減少した、中下旬に至り台灣の台中農會及新竹農會の購買入札の手當品取引が行はれ、最近珍らしく大口の取引を見た。

十　一　月

日本内地に於ける相場はチリ安で日本向き新規取引は殆んどなく、受渡し實行のための取引があつたに過ぎなかつたが、前月に引き續き台灣向け輸出の取引を見た

十　二　月

台灣の豆粕入札一段落を告げたるも、日本内地の需要期一月を前にして可成りの盛況を呈し昨年の出來高

一、三一六、八〇〇枚

に比して約二倍の取引を見た然し相場は大連のストック豐富にして安氣配のまゝ越年した。

(ハ)東支鐵道沿線各地に於ける豆粕製造高

今當北滿に於ける豆粕製造高を知る資料として一月四月及八月(最閑散期)十月(本月より油房の繁忙期に入る)十二月の各月々末現在に於ける一日豆粕製造高を表示すれば左の如し。

	一月末	四月末	八月末	十月末	十二月末
哈爾濱	二六、八三〇枚	六二、五九〇枚	六、〇〇〇枚	三二、三五〇枚	三八、一七二枚
滿溝	—	二、七八〇		二、五〇〇	二、四〇〇
安達	四、八〇〇	一八、三九〇		四、四〇〇	一六、九五〇
昂々溪	一、六〇〇	三、七〇〇		一、八〇〇	四、〇〇〇
西部線其他		一、二〇〇		—	—
阿什河	—	九〇〇		二、一〇〇	二、八〇〇
一面坡	—	—		—	三六〇
合計	三三、二三〇	九〇、一六〇	六、〇〇〇	四三、一九〇	六四、六八二
昭和四年各月月末	七九、四七〇	三四、四二四	二四、八〇〇	三三、四五〇	七三、四五〇

二、豆　油

（イ）出來高及相場（一布哇大洋建哈大洋、相場前述參照、英支車一車十六噸聯絡車一車三十噸の計算）

		出來高	相場 最高	相場 最低
一月	東行	七五東支車	五、六四	五、三五
	南行	一四九聯絡車	五、七五	五、三五
二月	東行	六四東支車	五、六三	五、四八
	南行	一四二聯絡車		
三月	東行	八七東支車	五、五〇	四、六八
	南行	一八六聯絡車		
四月	東行	五〇東支車	五、五五	五、四八
	南行	六六聯絡車		
五月	東行	五二東支車	五、五五	五、二五
	南行	一三九聯絡車		
六月	東行	六四東支車	六、二五	五、四九
	南行	一〇二聯絡車		
七月	東行	二七東支車	六、六〇	六、二五
	南行	七聯絡車		
八月	東行	二四東支車	六、三五	六、一五
	南行	五聯絡車	六、三二	六、一五
九月	南行	二〇聯絡車	六、一〇	五、二〇
十月	東行	一九東支車	五、〇九	四、六三
	南行	四三聯絡車	五、三六	五、〇〇
十一月	東行	五四東支車	四、九〇	四、五七
	南行	六〇聯絡車		
十二月	南行	二〇七聯絡車	四、八二	三、五五

（ロ）一般商況

前年末に引き續き歐洲筋の豆粕非常な安値を現出したゝめ、歐洲に於ては豆粕工場は採業を

中止するもの續出、從つて豆油の生産量も激減するに至り、其補充として一、二、三ケ月間歐洲向け輸出を見、相場は概して强氣配でつた。

四月下旬歐洲筋の買氣一頓挫したるも、五月下旬再び歐洲方面の買ひ氣つき、且つ原料に禍されて當地油房の製造力鈍り、加ふるに油房筋極度の賣り惜しみにて所謂ないもの相場を現出し。六、七、八、九月に於て六元台に昇騰したるも、七月以降は歐洲筋の買氣減退にて取引頗る不振であつた。十月以後は相場も漸落年末遂に三元五十五仙と云ふ最近の新安値を現出したまゝ越年した。

三、大　豆

(イ)出來高及相場(一布度哈大洋建、哈大洋相場前述參照、東支車は一車十六噸、聯絡車は一車三十噸)

		出來高	主要取引地	相場 最高	相場 最低
一月	東行	一九二車	八區	一、六二	一、五五
〃	南行	五三三聯絡車	廟台子	一、六〇	一、四八
二月	東行	二一五車	廟台子	一、五五	一、四八
〃	南行	二六七聯絡車	下城子	一、六一	
三月	東行	二、二五五車	安達	一、四八	一、三八
〃	南行	三五七聯絡車	廟台子	一、五〇	一、四四五
四月	東行	三、三五三車	安達	一、五六五	一、四八
〃	南行	二八八聯絡軍	富錦	一、二七	一、二一
五月	東行	一、三九五車	富錦	一、二二	一、一三
〃	南行	二六聯絡車	廟台子	一、四四	
六月	東行	二、二一三車	富錦	一、二一五	一、一四
〃	南行	三四九聯絡車	八區(稅票つき)	一、六五	一、六二
七月	東行	三、一〇〇車	八區(同)	一、八二	一、六四
〃	南行	四二九聯絡車			
八月	東行	二、六〇八車	八區(同)	一、七三	一、六三
〃	南行	一〇九聯絡車			

九月	東行	六四四東支車	八區(同)	一、六四五	一、二八五
	南行	一五八聯絡車			
十月	東行	一、五六二東支車	八區(同)	一、四〇	一、二八
	南行	一〇四聯絡車	廟台子	一、一一	一、〇七三
十一月	東行	一、五七八東支車	一面坡	一、二五	一、一七
	南行	一一一聯絡車	對青山	一、一一	〇、九四
十二月	東行	一、八三一東支車	一面坡	一、二一	〇、九一五
	南行	四一聯絡車	對青山	一、〇二	〇、八五

(ロ)一般商況

一　月

歐洲豆安の爲め中旬相場二元四十九仙當時すら歐洲豆相場に比し一布度約三十仙の逆鞘となり歐洲筋の買氣全然なかつた僅かにワツサルド商會其他二、三が受渡し實行及豫約せる船腹の關係上輸出せるに過ぎなかつた。

二　月

前月に引續き歐洲豆安の爲め取引依然不振にて、三菱が大連油坊の原料として買付けたるものと及びワツサルドが他が豫約せる船腹を充すため、已むを得ず取引せる以外は頗る寥々たるものであつた。從つて相場は哈大洋安にも不拘す月初めより下落一方であつた。

三　月

上旬歐洲向け不出合の爲め殆ど全部日本向け輸出されたが相場は依然弱氣配であつた。十五日奉天官銀號系の東濟、成泰興油房が大豆買占めを斷行し、加ふるに十八、九日頃から久し振りに歐洲の買氣つき、下旬迄(廿三、廿二日頃迄)には可成りの輸出を見たが、それも一時的の現象に過ぎなかつた。

四　月

弱氣配であつた歐洲大豆相場月初より漸次持ち直し、五日九磅四志、八日九磅一〇志見富の好況を示すに至り、當地大手筋は一齊に活動を開始するに至り、上旬のみにても二、七〇〇餘車の取引を見たが、歐洲筋の買注文も一時的活況で例年の如く注文續かず、相場は漸次安含みとなり

警戒裡に越月した。

五　月

中下旬に至り哈大洋安のため歐洲向け採算可能圏内に入り、瞬間的に前述の如き取引が出來たが、之も一時的の現象で上旬は歐洲市面の買氣なく、外商も既約品以外には殆ど手合はせなく月中を通じて閑散狀態を續けた。

六　月

上旬は五月に引續き歐洲大豆界不振にて、外商筋の定期賣りつなぎのための取引があつたのみで取引閑散であつたが、月末に至り歐洲大豆相場保直して稍や活況を呈した。

七　月

上旬に於ては前月下旬以來歐洲筋の買氣旺盛と南滿の在荷薄にて當地外商筋の活躍は目ざましきものあり、之につれて邦商も可成りの取引をなす處があつた。當然の歸結として當地大豆相場の昂騰を來たした爲め、中旬に至りては歐洲の買氣は一服の狀態となり、下旬歐洲方面の買氣やゝ回復したるも出來高は上旬の半ばにも達しなかつた。

八　月

上旬より中旬の初め迄は降雨續き作柄懸念にて、歐洲方面の相場昂騰し可成りの取引を見たるも其後歐洲筋の買氣一段落となりたるにも拘はらず、連日の降雨にて相場のみ昂騰、月末天候定まると共に一元六十仙の安値に暴落した。

九　月

新大豆出廻りを直前にして古大豆尚十萬屯以上の殘荷あるため、手持筋は盛んに賣急ぎたるも歐洲筋の買氣は依然として喚起されず（相場月初めの八磅一五志より月末七磅五志に崩落）、益不振に陷り相場も下向一方であつた。從つて例年盛んに行はれる青田買賣も頗る閑散にて、月中三口（二百五十五東支車）の取引契約があつたに過ぎなかつた。

十　月

月初連日の降雨で北滿大豆の出廻り遲れるとの電報歐洲に飛び、上旬より中旬に掛けて可成りの取引を見たが、下旬に至るや其の買氣も一服となり、從つて相場は日々下落一方にて遂に一元台割れを演じ、農民は豐作飢饉を唱つに至つた。

十一月

上旬東部線一帶の大豆相場は大体に於いて歐洲との取引採算圏内にありたるも、依然歐洲筋の買氣つかず弗々取引を見たのみで、出廻り當初としては頗る不振であつた。更に中旬に至りて降雪多く出廻り益々遲延すとの報歐洲に傳はり、歐洲高を誘起し月初めの六磅十三志より七磅三志九片まで昂騰上向きたる結果二、三大手筋の東部線方面の買進みとなり、中旬に比し約二倍の取引を見た。併し月末出廻りの増加と共に歐洲の買氣も一段落となり、歐洲相場は二十二日の七磅八志九片を最高とし月末七磅丁度まで下落した。

十二月

東部線一帶の大豆相場は辛ふじて歐洲との引合採算可能圏内にありたるため、月中約二千五百車の取引を見たるも、全体より見れば昨年(昭和四年)十二月同樣頗る不振であつた。最大需要先たる歐洲の相場を見るに

	高値	安値
上旬	七磅五志	六磅十七志六片
中旬	六磅十七志六片	六磅十志
下旬	六磅十三志九片	六磅五志

の如く下向き一方にて、尙昨年の十二月と比較すれば約三割方安と云ふ慘落振りである。然るに大豆の代用品たる亞麻仁は四割七分安、又飼料としての大豆代用品たる玉蜀黍は五割安にて、大豆以上に暴落せるため歐洲及當地大豆相場が今一段と下向くか、或は一般經濟界が好轉せざる限り今日以上の需要は喚起されまいと迄の悲觀說すら出て頗る沈鬱に越年した。

(八)東支鐵道沿線各地に於ける各月末在荷量は左表の如し

八月末	二、六〇〇屯	一二、〇〇〇
九月末	二、〇〇〇屯	四、〇〇〇
十月末	三、八〇〇屯	四、〇〇〇
十一月末	七、三〇〇	九、六〇〇
十二月末	九、〇〇〇	一三、〇〇〇

政府は北滿に於ける小麥及其他雜穀の海外輸出を解くに至り、同月二十八日附を以つて吉林官局の名により、特別區及東支鐵道管轄外に寧波子經由のものに限り解禁を與し同で五月二十七日對

	一月末	二月末	三月末	四月末	五月末	六月末	七月末	八月末	九月末	十月末	十一月末	十二月末
哈爾賓	五四〇〇〇瓲	六二〇〇〇瓲	五五〇〇〇瓲	四三〇〇〇瓲	六六〇〇〇瓲	六二〇〇〇瓲	八五〇〇〇瓲	六六〇〇〇瓲	六六〇〇〇瓲	五二〇〇〇瓲	六四〇〇〇	六二〇〇〇
溝幕	一六〇〇〇	一六〇一〇〇	一一〇〇〇〇	一六〇〇〇	二一五一〇	二二〇〇〇	八〇〇〇	八〇〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇	六六〇〇	一五六一〇〇
安達	六六〇〇〇	六六一〇〇	六六〇〇〇	六六〇〇〇	四四一〇〇	四二六〇	六二〇〇〇	一六四〇〇	一四〇〇〇	一四〇〇〇	二二六〇〇〇	四八〇〇〇
昂々溪	一六〇〇〇	一六六〇〇	五二一〇〇	四四一〇〇	四四一〇〇	四二〇〇〇	一六〇〇〇	一六〇〇〇	一一〇〇〇	二二〇〇〇	二二六〇〇	四四〇〇〇
西部線其他	六四〇〇	四〇〇〇	二四〇〇	六〇〇	六〇〇	—	—	—	—	六〇〇	四〇一〇〇	四〇〇〇
阿什河	一〇六〇	六〇〇	六四〇	六〇〇	—	—	—	—	—	一〇一〇〇	四〇〇〇	四〇一〇〇
烏吉密河	四〇六〇〇	二四〇〇	一〇六〇	—	—	—	—	—	—	一〇六〇	四一〇〇	四〇〇〇
一面坡	四〇〇〇	四〇一〇〇	一〇〇〇	四六〇	—	—	—	—	—	四一〇	四〇〇〇	六〇〇〇
海林	一〇〇〇	一一六〇	一一六〇	—	—	—	—	—	—	一一六〇	四〇一〇〇	四〇一〇〇
牡丹江	二四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一一一〇	—	—	—	—	—	一六一〇	二一六〇	二四〇〇
下城子	四一一〇	四一〇〇	二四〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東部線其他	四一〇〇	一六一〇	一一〇〇	六〇〇	一一六〇	六〇〇	四三一〇	—	四〇〇	六〇〇	四〇〇〇	六〇〇〇
双城堡	一〇四〇〇	六〇〇〇	四〇〇〇	二四〇〇	—	—	—	—	—	一〇〇〇	四〇〇〇	一〇〇〇〇
三岔河	四〇六〇〇	四六〇〇	四〇六〇〇	一一一〇	—	—	—	—	—	三一〇〇	六〇〇〇	六〇〇〇
南部線其他	四〇〇〇	四〇〇〇	一〇〇〇	一一六〇	四〇〇〇	二四〇〇	四六〇	四〇〇	六〇〇	二四〇〇	四〇〇〇	四〇〇〇
合計	一四二一二〇	一四六〇〇〇	一四六〇〇〇	一六六〇〇〇	二〇四〇〇〇	一六二一六〇	一四二一六〇	二一四一一〇〇	九四一〇〇	二〇三一一〇〇	一四四一一〇〇	一六六〇〇〇
昭和四年度は	一五四一〇〇	一四六二〇〇	一四四一六〇	一四六四〇〇	一四六一六〇	一六六〇〇〇	一四二一六〇	九二一六〇	六三一六〇	六六四〇〇	六六一六〇	一四四一一〇〇

右表中哈綏濱の項に於て困敵期たる四月以降夏期中に在荷最比較的多きは、解氷と同時に出廻る河豆の入荷によるもので、本年は四月以降左表の如く入荷を見た。

松花江河豆の哈爾濱出廻量

	四月末迄	五月末迄	六月末迄	七月末迄	八月末迄
昭和五年	九、六〇〇屯	一〇三、〇〇〇屯	一六二、八四七屯	二八一、四〇二屯	三二七、七一四屯
昭和四年	不詳	一二二、六二一	一四一、八〇〇	二二〇、二七〇	三一五、六三二
昭和三年	不詳	不詳	一五五、三〇〇	一九三、六八〇	二九〇、六七八
昭和二年	不詳	不詳	二六二、七〇〇	三〇七、六九〇	四一一、一七四

四、小　麥

昭和四突發した露支紛爭以來實施されたる小麥の國外輸出禁止は、支那側總商會及商民の熱心なる解禁運動か永きに亘り持續されたるにも拘はらず、仲々解禁の機運醸成されず、昭和五年に該問題は持ち越さるゝに至つた。

昭和五年初頭以來該問題に關し奉天當局は南京政府との間に諒解に努め、三月に至り漸く南京政府は北滿に於ける小麥及其他雜穀の海外輸出を解くに至り、同月二十八日附を以つて吉林當局の名により、特別區及東支鐵道督辦宛に寛城子經由のものに限り解禁を發し嗣で五月二十七日對

露及清國産品輸出も解禁せらるゝに至つた。

然るに解禁後も稀有の豊作を示せる米國小麥の壓迫を受けて、北滿の小麥は東支鐵道沿線から一歩も進出する能はざる窮境にあり、從つて當地八區の製粉所に於ても採算不引合に陷つて、操業中止の已むなき窮狀に陷れるもの續出するに至つた。右の如く當地麥粉原料としての小麥需要は影しく減少したるにも拘はらず、小麥相場は依然として海外向には遠く採算圏外にあり、從に一ヶ年を通じて海外向け輸出取引を見る能はなかつた。

今試みに各月の高値安値相場を示せば左の如し（現物一布度哈大洋建、哈大洋相場前述參照）

	高値	安値
一月	二、三二元	一、九三元
二月	二、四〇	三、一八
三月	二、三〇	一、九〇
四月	二、三〇	二、一八
五月	二、三四	二、一二八五
六月	二、六八	二、四〇
七月	二、六五	二、二六五
八月	二、六五	二、三〇
九月	二、三四	二、〇七七五
十月	二、一四	一、七六五
十一月	二、〇〇	一、七一
十二月	一、九〇	一、六三

尙出廻りの趨勢を知るため東支鐵道沿線各地に於ける各月々末在荷量を示せば左の如し（單位キロ屯）

	哈爾濱	滿洲里	安達
一月末	四二、四〇〇	九、六〇〇	一〇、四〇〇
二月末	二六、六〇〇	六、六六六	九、三六六
三月末	一六、八〇〇	六、四〇〇	四、六〇〇
四月末	一〇、〇〇〇	五、四〇〇	六、四〇〇
五月末	一六、八〇	四、九〇	三、八〇
六月末	一九、六〇	四、六〇	一、六〇〇
七月末	二二、一〇〇	二、八〇	八、〇〇〇
八月末	四、〇〇〇	一、九二〇	一、六〇〇
九月末	三、四〇	三六六	〇
十月末	三、二二〇	一、二二〇	四〇〇
十一月末	七、二〇〇	六六〇	一、六〇〇
十二月末	八、八〇〇	二、〇〇〇	四、八〇〇

昂々溪	四、〇〇	五、一四八	八、一六〇	九、六〇〇	七、六〇〇	一一、六〇〇	—	六、五六〇	六、三一〇	六、七一〇	四、六四〇	五、一〇〇
西部線其他	一一、五六〇	六〇〇	四八〇	一六〇	一六〇	—	—	—	—	四八〇	四八〇	一、一〇〇
阿什河	一六〇	—	—	—	—	—	—	—	—	四八	四八	—
烏吉密河	一六〇	—	—	—	—	—	—	—	—	一一一	一六〇	一六〇
一面坡	一四〇	八〇	八〇	—	—	—	—	—	—	一四〇	三一〇	一四〇
海林	四〇〇	一六〇	一六〇	—	—	—	—	—	—	四八〇	一九一	一六〇
牡丹江	三一〇	一四〇	一六〇	八〇	—	—	—	—	—	三一〇	八〇	—
下城子	一、一一〇	四八〇	一四〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東部線其他	一、一六〇	四八〇	三一〇	一四〇	—	—	—	—	四八〇	四八〇	四〇〇	一四〇
寶城堡	一一、四〇〇	一、九一〇	一、六〇〇	九六〇	—	—	—	—	—	四〇〇	四六〇	一、六〇〇
川谷河	八〇〇	一六〇	一四〇	一四〇	—	—	—	—	—	三一〇	五六〇	一、一六〇
南部線其他	一、六〇〇	三一〇	四〇〇	一四〇	四八〇	四八〇	一六〇	—	九六〇	四〇〇	一六〇	一四〇
合計	六、一四〇	五、三一〇	六一、六〇〇	四五、九一〇	四五、六〇〇	四六、〇八〇	一一、一四〇	一四、〇八〇	一一、六一六	一四、六〇〇	一五、四〇〇	一四、一八〇
昭和四年同日	六、一一〇	九〇、〇八〇	一〇一、四〇〇	七〇、三一〇	七四、六五〇	四〇、一一〇	一一、三一〇	一〇、三一〇	一六、一一〇	一四、六〇〇	一三、六四〇	五三、三一〇

尙松花江沿岸小麥の出廻量を知るため解氷以來の八區到着數量を示せば左の如し（單位キロ屯）

	五月末迄	六月末迄	七月末迄	八月末迄
昭和五年	一一、五〇〇	一四、七八八	二三、五五〇	二五、六三〇
同　四年	五四、六六五	六七、五〇〇	九六、二六五	一〇〇、〇〇〇
同　三年	三二、〇〇〇	四八、〇〇〇	八九、六〇〇	九八、〇〇〇

（了）

昭和五年哈爾濱商況（終）

哈爾濱商品陳列館刊パンフレット目錄

號數	書名	
一	東三省特別區市內、鄉、自治、暫定規則並施行令	(缺)
二	北滿特產と日本特產商の現狀	(缺)
三	滿洲里、海拉爾事情	(缺)
四	勞農露西亞の國家制度(上)	(缺)
五	同 (下)	(缺)
六	勞農露國の對外貿易規則集(上)	(缺)
七	北滿洲の工業概觀	(缺)
八	勞農露國の對外貿易規則集(下)	
九	現行勞農商業法規概說	
一〇	現行勞農企業法規概說	
一一	西伯利經濟事情(上)	(缺)
一二	同 (下)	(缺)
一三	北滿地方の阿片	(缺)
一四	露國の蚕糸と北滿洲の蚕糸栽培研究	(缺)
一五	(一)ソウエート、憲法史の梗概	(缺)
	(二)金融上より見たる東鐵附屬地土地建物の權利關係	(缺)
一六	(一)ソウエートの最高裁判	(缺)
	(二)ソウエート機關の概要	(缺)
一七	勞農露國に於ける取引契約	(缺)
一八	(一)村落、鄉ソウエート機關の概要	
	(二)勞農當局の說明せる同國の現狀	
一九	(一)同縣州內國貿易部 關する規定	(缺)
	(二)勞農勞働組合法規	(缺)
	(三)ソウエート內に於て外國人が商業に從事する規定	(缺)
二〇	包裝の研究	(缺)
二一	ウクライナ共和國の概況	

二二　北滿地方の阿片（下）
二三　北滿に於ける露人及外人關係事業（缺）
二四　露領極東大觀（一）（缺）
二五　同　（二）
二六　入露の指針
號外　蒙古の旅
二七　（一）勞農露國內異種民族共和國の近況
（二）勞農露國及極東諸貿組合成績
二八　露領極東大觀（三）
二九　哈爾濱に於ける列國の經濟勢力（上）（缺）
三〇　全　（下）（缺）
三一　露人の見たる太平洋問題解決道程一（缺）
三二　東支沿線指南（上）（缺）
三三　勞農露國々立極東及極東農業銀行定款
三四　露人の見たる太平洋問題解決の道程（二）
三五　露領極東概觀
三六　露人の見たる太平洋問題解決の道程（三）
三七　東支沿線指南（中）（缺）
三八　露人の見たる太平洋問題解決の道程（四）
三九　沿海縣事情（上編）
四〇　一九二五年—二六年度ソウエート國民經濟豫想
四一　大正十四年度勞農露國
四二　沿海縣事情（中編）
四三　同　（後編）
四四　ソウエート聯邦對外貿易銀行定款
四五　極東經濟問題中に現れた東支鐵道（上編）
四六　同　（下編）
四七　公報より見たるソウエート聯邦經濟狀態
四八　ソウエート對外獨占とネープ
四九　計畫的經濟と外國貿易獨占
五〇　ソウエート極東の教育
五一　ソウエート國營工業
五二　（一）ソウエート一九二五年度の經濟政策
（二）ソウエート工業管理に職業組合參加
五三　ソウエート利權政策の新傾向
五四　經濟上より見たる勞農露西亞
五五　極東地方金融制度
五六　ソウエート聯邦法規概要（上）
五七　勞農露西亞の財產權
五八　ソウエート聯邦法規概要（下）
五九　ソウエート聯邦に於ける徵稅（缺）
六〇　ソウエート聯邦に於ける外國貿易（一）（缺）
六一　同　（二）（缺）
六二　東支沿線指南　下編（乾）
六三　同　同（坤）
六四　ソウエート聯邦に於ける經濟事情（缺）
六五　ソ聯邦と共和國並に共產黨と猶太人（缺）
六六　ソウエート文化施設外國人の權利義務私有財產及相續財產
六七　西伯利地方極東地方並ヤクートスクブリヤトモゴリ社會主義ソウエート自治共和國
六八　ソウエート聯邦利權法（上編）
六九　同　（下編）
七〇　ソウエート聯邦に於ける輸出貿易の明節性
七一　ソウエート極東地方の諸統計
七二　洮昂及四洮鐵道案內
七三　一九二六年度露國の外國貿易と日露貿易
七四　支那領烏蘇里沿岸事情
七五　ヤクーツク共和國（上卷）
七六　ヤクーツク共和國（下卷）
七七　最近に於ける蘇聯邦の國民經濟一般
七九　極東經濟及び文化的施設に對する各委員の報告概要
八〇　極東殖民史
八一　松花江沿岸事情
八二　北滿の移民
八三　沿海縣の水田
八四　ソウエート共和國土地法典（前編）
八五　同　（後編）
八六　露支東部國境の徵稅事情
八七　呼海鐵路並に沿線事情

八八　吉拉林及三河地方事情
八九　ロシヤ雜觀（上篇）
九〇　同　（下篇）
九一　松花江の航運
九二　極東の水田
九三　ソウエート聯邦概覽
九四　北滿に於ける輸入商品（その一）
九五　蘇聯邦極東產業計畫
九六　極東沿海地方の諸企業（上卷）
九七　極東沿海地方の諸企業（下卷）
九八　北滿に於ける輸入商品（その二）
九九　現行外國利權及國民經濟に及ぼす影響
一〇〇　旅大並に南滿東支鐵道附屬地とその隣接地帶に於ける支那人の經濟的勢力
一〇一　蘇聯邦の課稅と反幹部派
一〇二　東支鐵道沿線牧畜狀態及同鐵道の對策並に沿海縣北滿の米作
一〇三　ソウエート聯邦における原料貯藏高
一〇四　吉林省中部各縣事情　（上卷）
一〇五　同　（下卷）
一〇六　蘇聯邦の大資本施設　（上卷）
一〇七　同　（下卷）
一〇八　昭和三年哈爾濱市況
一〇九　傳家甸に於ける工業
一一〇　蘇聯邦の國營保險
一一一　北滿に於ける輸入商品（その三）
一一二　哈爾濱に於る商工組合其他規定集（上）
一一三　蘇聯の失業と其對策
一一四　哈爾賓に於る商工組合其他規定集（下）
一一五　松花江の航運　附黑龍江航運の使命
一一六　極東露領の植民
一一七　東支鐵道南部沿線事情
一一八　極東露領視察記（一）
一一九　同　（二）
一二〇　極東露領移民用地の概要
一二一　最近の浦鹽斯德港

一二二　東支鐵道西部沿線事情
一二三　烏蘇里地方に於ける朝鮮人
一二四　東支鐵道問題の眞相と其經過（上）
一二五　同　同　（下）
一二六　東支鐵道西部沿線事情（下）
一二七　傳家甸の商工一覽
一二八　ブリヤートモンゴリヤ社會主義ソウエート自治共和國事情　（上）
一二九　同　（下）
一三〇　最近西伯利產業の發達に就て　（上）
一三一　同　（下）
一三二　昭和四年哈爾濱商況
一三三　北滿大豆、豆粕及豆油の輸出組織
一三四　西伯利地方の鑛產　（上）
一三五　同　（下）
一三六　東支鐵道東部沿線事情　（上）
一三七　洮昂、四洮及打通鐵道一般經濟事情上
一三八　同　（下）
一三九　滿海、吉海鐵道沿線事情
一四〇　獨逸輸出貿易出張員を顧みて
一四一　呼海鐵道と其沿線特產事情
一四二　北滿鮮人農村概況
一四三　蘇聯邦の內外商業及工業に對する批判　（上）
一四四　同　（下）
一四五　露西亞共和國コルホズ共同農業に就て
一四六　蘇聯邦ソフホズの研究（上）
一四七　齊克鐵道及沿線事情　（上）
一四八　東支鐵道東部沿線事情　（中）
一四九　『ソフホズ』の研究　（下）
一五〇　北滿に於ける日本商品の劣勢なるものに關する調査　（上卷）
一五一　世界的不況と其極東及滿洲に及ぼした反映
一五二　北滿に於ける日本商品の劣勢なるものに關する調査　中卷　（缺）

一五三　齊克鐵道及沿線事情　（下）

一五四　北滿に於ける日本商品の劣勢なるもの
に關する調査　下卷　（缺）

二五五　蘇聯邦シンジケート組織購買及農業生
產組合

一五六　東支鐵道東部沿線事情　（下）

終